

うみやまかわ白書

平成 29 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 離島経済新聞社

うみやまかわ新聞は

日本をつなぐ「海」「山」「川」を
キーワードにした新聞です

全国の小学生が

それぞれの地域取材しました
さまざまなうみ・やま・かわと
身近なうみ・やま・かわを比べ

広い海に浮かぶ島国の恵みや

同じ日本にある地域の
「つながり」や「ちがい」を
感じてください

2016 年度

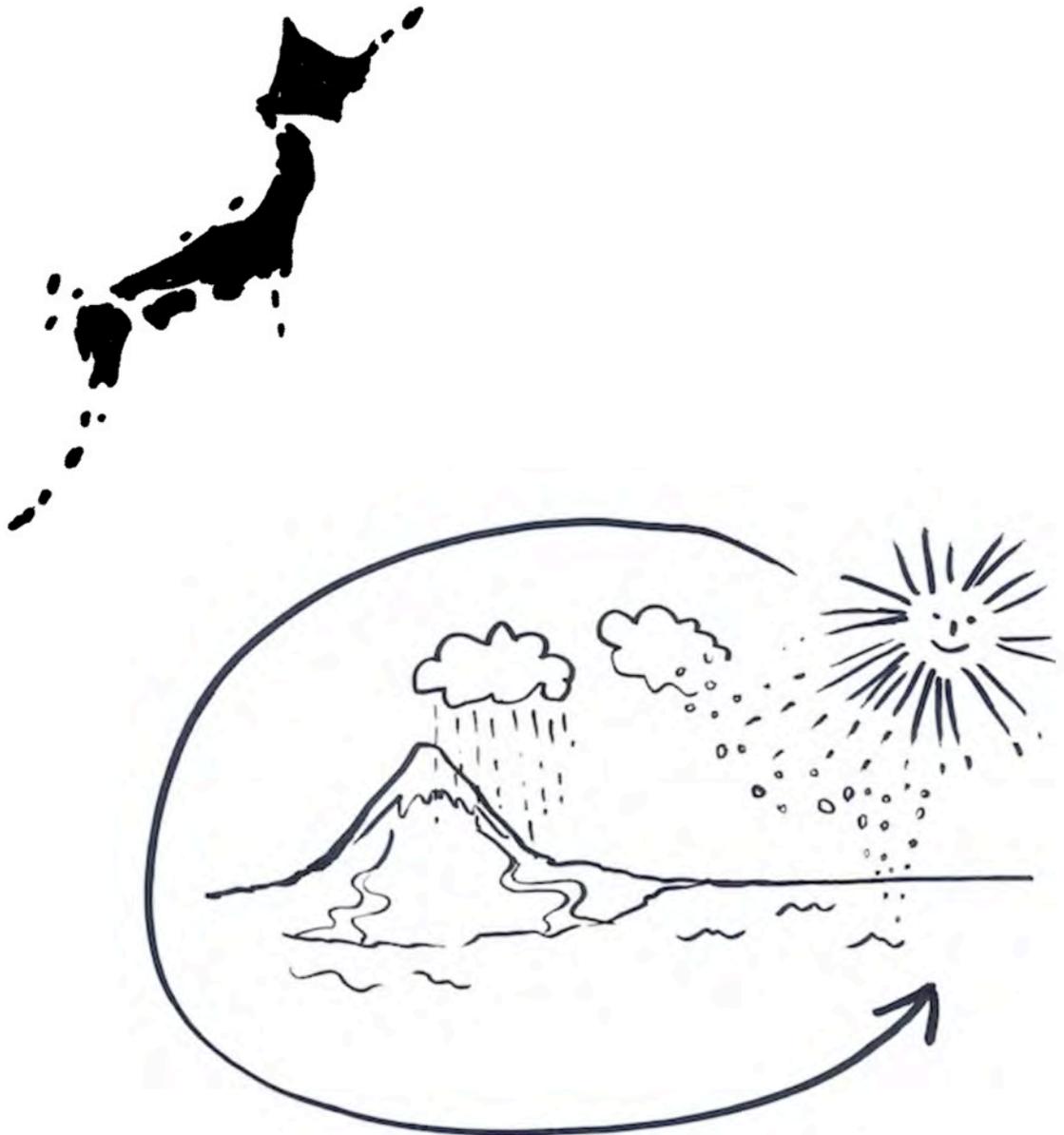
うみやまかわ新聞

UMI YAMA KAWA

1.1 はじめに	3
事業概要	4-8
2.1 事業概要	4
2.2 実施背景	5-7
2.3 プログラム紹介	7
2.3.1 地域学習	7
2.3.2 キャリア教育	7
2.3.3 ICTの活用	7
2.3.4 交流体験	8
実施要領①	9-12
3.1 うみやまかわ新聞事業の目的	9
3.2 得られる6つの学び	9
3.3 実施に向けた体制構築	10
3.4 カリキュラム作成の考え方	11
3.5 使用ツール	11-12
実施要領②	13-14
4.1 授業手法	13
4.2 授業実施時のポイント	13
4.3 ICT紹介	13-14
4.3.1 Web会議システム利用時のポイント	14
実施要領③	15-19
5.1 各授業内容の詳細	15-17
5.2 ワークシート	17-19
導入地域	20-54
6.1 2014年度概要	20
6.2 2014年度参加地域紹介	21-25
7.1 2015年度概要	26
7.2 2015年度参加地域紹介	27-38
8.1 2016年度概要	39
8.2 2016年度参加地域紹介	40-54
実施地域の声	55-83
9.1 教員・地域コーディネーターの声	55-73
9.2 学習者の声	74-82
9.3 アンケート回答に対する考察	82-83
社会評価	84-90
10.1 他媒体掲載実績	84-90
まとめ	91-92
11.1 教育カリキュラムとしての可能性	91-92
12.1 総論	92

1.1 はじめに

日本は 6852 の島からなる島国です。本土 5 島と約 400 島の離島地域に人が暮らし、世界第 6 位規模の広大な海洋に恵まれています。大きな海の海水は太陽の光によって水蒸気となり、雲となり、雨になって山へ降り注ぐと、川を下ってまた海に流れます。海と島でできたこの国には、このような「水のつながり」があります。また、この国には地域と地域をつなぐたくさんの「うみ」「やま」「かわ」があり、そのつながりから生まれた「文化」「歴史」「経済」があります。各地にある独自の「文化」「歴史」「経済」を知ることは、それぞれの土地の姿や日本の姿を知ることにつながると、当事業は考えます。



2.1 事業概要

「海と地域のつながりを見つける『うみやまかわ新聞』の制作事業（以下、当事業）」は海洋教育の促進を目的に、公益財団法人日本財団と NPO 法人離島経済新聞社の共同事業として、2014 年度にスタートしました。当事業では、海に囲まれた島国である日本について、海だけでなく山や川を含めた地域の自然や文化、歴史、経済を総合的に学べる教育プログラムを提供。学習者は「うみ」「やま」「かわ」をキーワードにしたうみやまかわ新聞を制作することで、海と島でできた日本を総合的に学びます。2014 年度から 2016 年度までの 3 年間で 18 地域、14 の小学校で事業を実施し、のべ 466 人が学習に参加しました。

▼年度別の参加地域と参加人数

<2014 年度>

北海道利尻町（利尻島）：20 名
東京都檜原村：7 名
愛媛県上島町（弓削島）：2 名
大分県日田市（中津江村）：2 名
沖縄県与那国町（与那国島）：2 名
計：33 名

<2015 年度>

北海道利尻町（利尻島）：23 名
千葉県いすみ市：29 名
千葉県富津市（金谷地区）：15 名
東京都江戸川区（葛西地区）：38 名
山梨県北杜市：26 名
長野県木曾町：7 名
兵庫県姫路市（家島）：16 名
愛媛県上島町：17 名
高知県佐川町（尾川地区）：13 名
長崎県対馬市：8 名
大分県日田市：9 名
沖縄県うるま市（津堅島）：9 名
計：210 名

<2016 年度>

北海道利尻町（利尻島）：17 名
千葉県いすみ市：35 名
東京都江戸川区（葛西地区）：45 名
山梨県北杜市：10 名

長野県木曾町：4名
滋賀県近江八幡市（沖島）：9名
岡山県真庭市（落合地区）：30名
愛媛県上島町：23名
高知県佐川町（尾川地区）：12名
長崎県対馬市：8名
大分県日田市：10名
鹿児島県屋久島町（口永良部島）：3名
鹿児島県和泊町（沖永良部島）：10名
沖縄県うるま市（津堅島）：7名
計：223名

2.2 実施背景

事業実施の背景には、次世代の担い手育成及び海洋教育促進の必要性があります。

◎離島地域の置かれた状況

離島地域をはじめとした過疎地域は日本全体が直面する 20 年先の問題を抱えていると言われていています。図 1 は日本全体と離島地域（※1）の人口推移を示したもので、1955 年（昭和 30 年）の人口を基準にした時、2010 年まで日本全体の人口は約 4 割上昇しているが、離島地域の人口は約 5 割減少しています。また、過疎地域の置かれた状況として、人口流出とそれに起因する高齢化率の上昇が挙げられます。図 2 は全国と離島地域（※2）の高齢化率の推移を表しています。

※1…離島振興関連各法に基づき指定されている離島のうち、2014 年（平成 26 年）4 月 1 日現在の住民基本台帳により住民の居住が確認された 303 島を対象。

※2…全部離島 33 市町村 83 離島を対象。全部離島とは離島地域のみで構成されている自治体を指す。

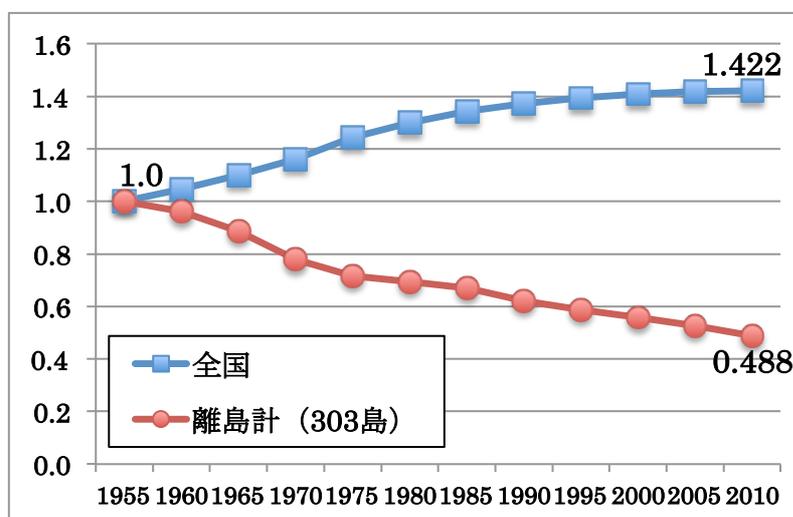


図 1 全国と離島地域の人口推移（1955 年人口を基準）

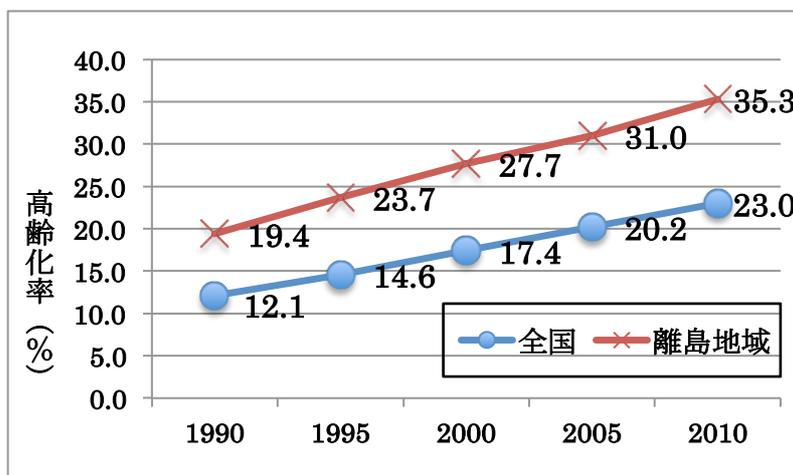


図2 全国と離島地域の高齢化率の推移

◎地域への愛着醸成の必要性

図1、図2から離島地域や中山間地域など過疎地域と呼ばれる地域では人口減少が加速し、高齢化率が上昇していることが分かります。また、教育施設の整備状況では、学校規模の適正化を進めるため小学校および中学校の統廃合が進んでいます。小・中学校の統廃合の結果、自治体内の離れた地区へスクールバスやスクールボートを使用して通学しているケースも多くみられます。図3は離島地域（※1）における教育機関の所在状況を表しています。小規模地域の場合、域内の高等教育機関が限られることから、進学に従い生まれ育った地域（故郷）を離れる場合も多くあります。こうした状況から人口減少地域では、将来的に地域を担う人材のUターンを促進するため、小学生年代のうちから地域について学び、地域への愛着を醸成する重要性が問われています。

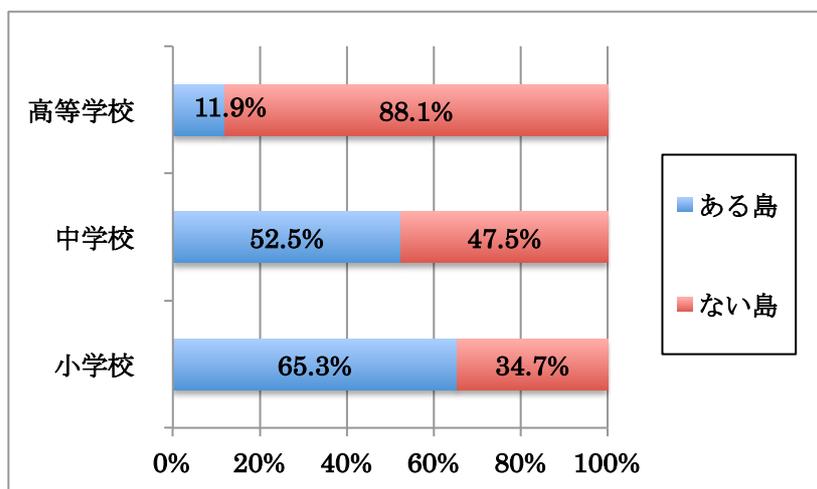


図3 離島地域の教育機関所在状況（2014年4月1日時点）

◎海洋教育の重要性

当事業が捉える海洋教育は、単に「海について学ぶ」ものではなく、「島と海でできた日本を多角的かつ包括的に捉える視点を養う教育」を指します。自らが暮らす地域の魅力や

良さを理解し、他地域との交流体験から日本の多様性に触れることで、島国を俯瞰する視点を養います。こうした教育は、多様化を極める社会を理解する上でも重要と考えます。当事業では海洋教育の視点を柱に、ICT の活用やキャリア教育の要素を取り入れた、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）として、カリキュラムを構築しました。

2.3 プログラム紹介

当事業は小学校高学年（5・6年生）を対象にした教育プログラムです。地域学習やキャリア教育、ICT を活用した交流体験などの要素を取り入れた、アクティブラーニングを実践できるカリキュラムとして、小学校の総合学習や地域学習に導入、実施しました。約1年間をかけて実施する授業の流れについて、以下に説明します。

- ①情報やメディアについて学習
- ②地域についての分析
- ③地域のリサーチ
- ④制作する新聞のテーマ決め
- ⑤取材の準備、取材実施
- ⑥素材（原稿、写真、イラスト等）の制作
- ⑦素材の校正、編集作業
- ⑧発表の準備、発表（※新聞作りで学んだことなどを発表してもらいます）
- ⑨まとめ

2.3.1 地域学習

うみやまかわ新聞の授業では「うみ」「やま」「かわ」をキーワードに自分が暮らす地域の自然や文化、歴史、産業などについて学習します。小学校中学年までに行う地域学習を土台に、インターネットや地域に関連する書籍などを使ったリサーチ（調べ学習）や、地域に詳しい大人や専門家への取材を行うことで、地域をより深く学ぶことができます。

2.3.2 キャリア教育

うみやまかわ新聞では、小学校の担当教員や受け入れ団体の担当者のほか、地域コーディネーター（後述）が学習をサポートします。また、新聞作りの過程で行う取材では、学習者が地域の大人や専門家への取材を行い、制作を学ぶ過程では、プロの編集者から新聞作りや編集について学びます。学習過程で多様な大人とコミュニケーションをとり、地域の仕事や編集の仕事など、多様な職業を学ぶことができる点から、キャリア教育としても有効と考えられます。

2.3.3 ICT の活用

うみやまかわ新聞の授業は、Web 会議システムを活用して行います。授業毎に、学習者の教室と、東京や沖縄などに所在する講師陣を Web 会議システムで接続。ICT を活用することで、離島地域や中山間地域など遠隔地にある小学校に対しても、均一的な教育プログラムを提供することができます。

2.3.4 交流体験

ICT の活用により、同プログラムの参加校（地域）同士を接続する交流授業を実施することができます。他地域にいる同年代児童との交流体験は「同級生が少ない」「コミュニケーションが固定化しやすい」といった小規模校の欠点が補えるほか、自らが暮らす地域との「違い」や「つながり（共通点）」を感じることで、日本の多様性を知ることができます。



3.1 うみやまかわ新聞事業の目的

日本の総人口は2008年をピークに人口減少に転じ、都市への人口流出などに起因して、人口減少に歯止めをかけられない離島地域や中山間地域では、公立の小学校や中学校の統廃合が加速しています。こうした状況が進行すれば、各地の小規模地域は無人化し、各地で育まれてきた「文化」「歴史」「経済」も消滅します。そこで、当事業の目的には、地域の未来を担う人材育成につながる海洋教育の機会創出とその実現を据えています。

3.2 得られる6つの学び

事業を通して学習者は以下の6つの学びを得ることができます。

①多面的・総合的にものごとを見て考える力

社会を多面的に捉える「新聞」をつくる過程で、ものごとをさまざまな角度から総合的に見る力（広い視点）や考える力を養うことができます。

②自然や人とのつながりを尊重する心

身近にある自然（うみ・やま・かわ）と他地域の自然を比べることで、自然や人とのつながりを尊重する心を育むことができます。

③地域や国に対する愛着と誇りの醸成

プログラムに参加する他地域との交流を通して「他を知り自己を知る」ことで、地域や国に対する愛着と誇りを育むことができます。

④他者と協力するコミュニケーション経験

一緒に新聞をつくるチーム、他地域の同年代児童、講師陣、地域の大人といったさまざまな他者と協力しながら新聞づくりを進める経験により、コミュニケーション力を養うことができます。

⑤ICTを活用したプロジェクトを実践する経験

パソコン、テレビ電話などの情報ツールを使用し、ICTを活用したプロジェクトに参加・実践することで、専門的な経験や知識を養うことができます。

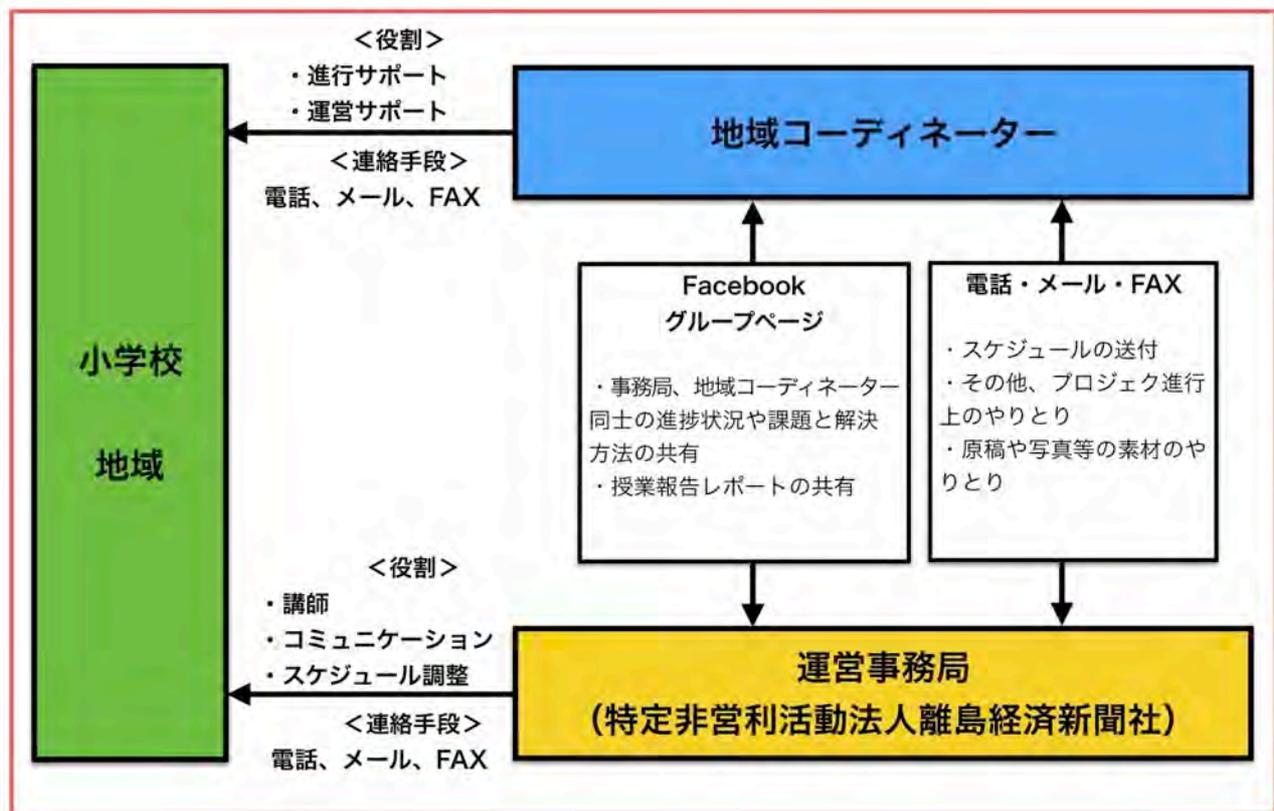
⑥情報の基礎知識（メディアリテラシー）

情報メディアの基礎である「新聞」づくりをプロに学ぶことで、社会のなかでどのように情報がつくられ伝わっていくかという「情報の基礎知識」を得ることができます。

3.3 実施に向けた体制構築

事業実施にあたり、うみやまかわ新聞事務局（講師陣）と小学校とのやり取りを円滑に行うため、各実施地域に地域コーディネーターを配置しました。うみやまかわ新聞事務局、小学校、地域コーディネーターの連携体制については以下の図にて説明します。

うみやまかわ新聞実施体制図



<運営事務局の役割>

- ・授業時の講師
- ・小学校（教員）、地域コーディネーターとのコミュニケーション
- ・授業スケジュールの調整

<小学校（教員）の役割>

- ・授業時の現場での進行
- ・授業時間外でのサポート

<地域コーディネーターの役割>

- ・授業時の現場での進行サポート
- ・ICT 機材の設置、運用
- ・取材等課外活動時の引率
- ・事業の情報発信

3.4 カリキュラム作成の考え方

当事業の実施にあたり、現行の学習指導要領に則ったカリキュラムを作成しました。「横断的・総合的な学習や探求的な学習」をはじめとした総合的な学習の時間の目標を意識し、「①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現」の流れを組み込みました。授業は、「①学び、②考え、③話し合い、④発表する」という流れを基本に、グループワークや発表の時間を多く設定しています。また、学習者が様々なものの見方や考え方に触れられるよう、地域の大人との触れ合いや体験活動をカリキュラムに設定しました。

うみやまかわ新聞のカリキュラムは年間 20 コマ (1 コマ×45 分) を想定。各コマに「めあて (到達目標)」を設定し、事前に教員や地域コーディネーターに共有し、授業開始時には学習者へも共有することで、学習者が目標を把握しやすく、学習意欲が向上します。

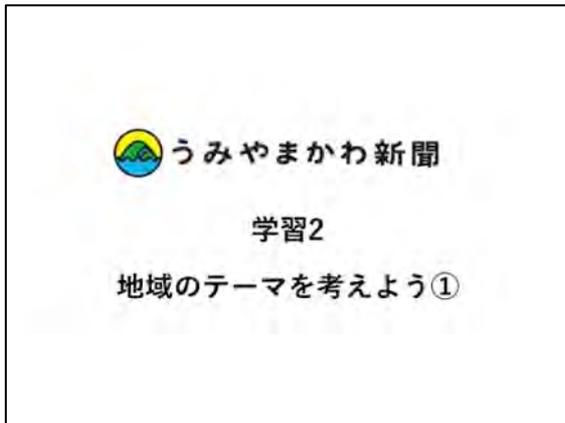
その他、学習者らが作成する新聞に地域の特色が出せるよう、新聞の「テーマ」は各校で行われている既存の取り組みや年間目標等に則して設定できるよう配慮しました。

3.4 使用ツール

授業実施にあたり、Web 会議システム (後述) のほか、「うみやまかわノート」およびテレビ画面上に写す「授業スライド」を使用します。



うみやまかわノート



講義スライド



講義スライドを使用した授業の様子

4.1 授業手法

授業は Web 会議システムを通じて、東京や沖縄の講師が遠隔で進行します。授業の形式は、講師が説明を行う「座学」、学習者が個人個人で考えたことを共有する「グループワーク（KJ 法やディスカッションなど）」、まとめた内容をクラス全体に共有する「発表」などがあります。グループワークや発表時には、教室にいる教員、地域コーディネーターが学習者をフォローします。

4.2 授業実施時のポイント

以下に授業実施時のポイントをまとめます。

◎グループワーク

地域にある「うみ」「やま」「かわ」のサーチや、テーマを決める時などは、各々の考えや意見をしっかり発言・共有できるよう KJ 法やディスカッションを行います。講師や学習支援者は「正解・不正解はない」というスタンスのもと、学習者が頭に浮かんだことを随時書き出し、発言できるよう、様子を見ながら声かけを行います。

◎作業時間の共有

限られた時間内でグループワークや発表を行うため、時間を意識した授業運営が重要となります。グループワーク、発表を行う前に、「この作業は〇〇分をお願いします」「発表は1人〇分をお願いします」というアナウンスを行うことで、講師及び学習者、教員、地域コーディネーターの各々が、時間を意識して作業に取り組むことができます。

◎講師の姿勢や目線、頷き、相槌

授業中、学習者はモニターやスクリーン上に映し出される講師の動きに注目をするため、講師は姿勢や目線を常に学習者に向けることが大切です。学習者が発表する際には、頷きや相槌を入れ「発表を聞いている」という意思表示をすることで、学習者が発表しやすい環境をつくることができます。

◎教室の状況把握

講師は遠隔での授業実施となるため、教室にいる教員や地域コーディネーターが教室の様子や学習者の理解状況、グループワークの進捗などを講師に共有することで、授業を円滑に進めることができます。

4.3 ICT 紹介

当事業で使用する Web 会議システムは、通信回線が弱い地域でも安定的に使用でき、セキュリティも十分である点から、ジャパンメディアシステム（株）の「LiveOn」を採用しました。



マイク&スピーカー



Web カメラ



「LiveOn」使用画面

4.3.1 Web 会議システム利用時のポイント

Web 会議システムを介した授業進行となるため、講師をはじめとする学習支援者が、あらかじめスムーズな進行を行うためのポイントを理解しておくことが重要です。

◎ジェスチャーや筆談の活用

音声のやりとりに不具合が生じた場合やネットワーク状況が不安定な場合の意思疎通の方法として、ジェスチャーや筆談の活用が効果的です。講師側の意図が伝わっている場合にはカメラに向かって、「丸」と合図をするほか、紙や黒板に状況を書いてカメラに映すことで、講師が現場の状況を把握できます。

◎Web 会議システムが不通となった場合

Web 会議システムが不通となった場合、基本的には、教員が教科書及び授業進行スケジュールに沿って授業を進めます。その間に、地域コーディネーターが Web 会議システムの復旧、再接続を行います。

5.1 各授業内容の詳細

<つかむ①：1コマ目（45分×1）>

1.新聞作りを学ぼう①

導入として、当事業についての説明、教科書である「うみやまかわノート」の使い方を説明します。その後、メディアや新聞の制作過程、授業で使用するツールについての座学を行います。次回以降の授業に向けて、チーム決めを行い、チームの中で編集長（班長）や副編集長（副班長）といった役割を決めます。

※チーム決めについて、あらかじめ学級で決まっているグループでの実施も可能です。

<考える①：2コマ目（45分×1）>

2.地域のテーマを考えよう①

自分が暮らしている地域の「うみ」「やま」「かわ」の情報を、KJ法を使って付箋に書き出します。その後、チームごとに書き出した内容を整理して、全体に発表します。発表後、再びグループワークを行い、書き出した「うみ」「やま」「かわ」の項目を「自然」「歴史」「産業」「文化」「観光」「その他」の6項目に分類して地域の特徴を分析します。

※現時点で知っている地域の事柄を書き出します。そのため、事前に地域について調べておく必要はありません。

※「うみ」「やま」「かわ」の切り口で地域の情報を書き出す際、挙がる項目が「自然」に偏りがちになるため、適宜、講師や担当教員、地域コーディネーターより、「産業」や「歴史」、「文化」といったキーワードを提供します。

※地域の特徴を分析については正解・不正解を問うものではありません。

<つかむ②・調べる：3コマ目（45分×1）>

3.新聞作りを学ぼう②

新聞に掲載する内容についての注意点や著作権、肖像権について学びます。インターネットや書籍でのリサーチ方法や手順についても学び、上記<考える①>の授業で分析した地域の特徴に基づいて、次回授業までに地域の「うみ」「やま」「かわ」をリサーチする宿題を出します。

※例えば、地域の特徴が「文化」となった場合は、地域にある「うみ」「やま」「かわ」の文化をリサーチします。

<考える②：4・5コマ目（45分×2）>

4.地域のテーマを考えよう②

各自、宿題でリサーチした地域の「うみ」「やま」「かわ」の情報をチームで共有し、その内容をチームごとに発表します。発表後、これから作る新聞のテーマを決定します。時間に余裕がある場合は、テーマに沿ってどのような記事を紹介するか、掲載記事の候補を考えます。

※授業内で掲載記事候補を考えられない場合は宿題となります。

※新聞を読んだ人に何を伝えたいか、知ってもらいたいかを意識して新聞のテーマを決めます。

※設定する新聞のテーマについて、事前に担当教員や地域コーディネーターと打ち合わせをしておくとしスムーズに進行することができます。

<作る：6・7コマ目（45分×2）>

5.新聞作りを学ぼう③

新聞作りで気をつけることや編集のポイントを学びます。その後、前回の授業（あるいは宿題）で考えた掲載記事の候補をもとに、紙面に掲載する5つの記事を決めます。掲載記事が決定後、各記事について取材方法や取材先を考えます。チームごとの担当記事は宿題で決めます。

※テーマ決めの際と同様、記事の候補が挙がった時点で、担当教員と地域コーディネーターで掲載記事候補を想定しておくとしスムーズに進行することができます。併せて取材先候補となりそうな地域人材も想定しておくとし、その後の進行がスムーズとなります。

<作る：8・9コマ目（45分×2）>

6.新聞作りを学ぼう④

新聞のテーマ、掲載記事、担当チームが決まったら、新聞紙面を構成しているパーツ（見出しやリード、本文など）の制作方法を学び、パーツごと担当する人を決めます。その後、質問内容を考える際のポイント（5W1H）を踏まえて、質問内容を考えます。また、取材に行った際の写真撮影のポイントや原稿のポイントについても学習します。

※取材を円滑に実施するため、質問内容の準備が非常に重要となります。また、取材対象者となる方へ事前に質問内容を共有しておくとしスムーズに取材を行うことができます。

<作る：10・11・12・13コマ目（45分×4）>

7.新聞作りを学ぼう⑤

4コマ（45分×4）を使用して取材を実施します。取材に行った際に必ず聞かなければならない情報（氏名や生年月日、肩書き）や必ず撮影しなければならない写真（プロフィール写真）について復習し、取材へ出かけます。

※取材の4コマ（45分×4）については、2コマを2回、4コマを1回など学校側の予定に合わせて実施します。

<作る：14・15コマ目（45分×2）>

8.新聞作りを学ぼう⑥

取材で聞いたことやリサーチした内容をもとに、各自、担当パーツの制作をします。原稿を担当する人は原稿作成準備シートを使用してどんなことを伝えたいのかなど内容を整理します。原稿以外を担当している人も同様に、どのような写真、イラストを掲載するのか考え、制作を進めていきます。

※取材後、本授業実施までに時間が空いてしまう場合は、取材後にメモを取る時間を確保

しておく、スムーズに授業を進めることができます。

※プロフィール写真の再撮影は相手の都合により難しい場合もあるので、取材に出かける前に注意しておく必要があります。また、プロフィール写真や聞いておくべき情報（取材対象者の氏名や生年月日、肩書きなど）については、教員や地域コーディネーターにて撮影やメモをしておく間違いがありません。

※授業内で書き上げられない原稿については宿題でまとめます。

<作る：16・17コマ目（45分×2）>

9.新聞作りを学ぼう⑦

<8.新聞作りを学ぼう⑥>の授業（あるいは宿題）で書いた原稿を一度、うみやまかわ新聞事務局に送り、本授業までに校正（赤字）を入れた原稿を返送します。本授業では校正について学習後、校正原稿を元に清書を行います。

<伝える：18・19コマ目（45分×2）>

10.新聞作りを学ぼう⑧

完成した新聞を元に、新聞作りの感想をまとめます。また、広報について学び、多くの新聞を読んでもらうにはどうしたらよいかを考えます。そのほか、新聞作りでお世話になった方へのお礼状を制作します。

<深める：20コマ目（45分×1）>

11.新聞作りを学ぼう⑨

完成した新聞を見比べて、自分が暮らす地域と他地域との違いやつながりを考えます。違いやつながりの発見を通して、島と海でできた日本の多様性を考えます。

5.2 ワークシート

授業は「うみやまかわノート」、画面上に表示する「授業スライド」を使用して進めていきます。その他、以下のワークシートも活用します。

・交流授業のワークシート

他地域との交流授業が円滑かつ、限られた時間の中で濃い交流ができるよう活用します。

・地域コーディネーター自己紹介シート

授業をサポートする地域コーディネーターがどのような人物か、学習者が事前に理解できるよう、自己紹介文を記入するシートです。初回授業時までに学習者へ配布します。

・原稿作成準備シート（2015年度活用。2016年度は「うみやまかわノート」に挿入）

原稿制作の際、どのようなことを書くべきなのか、原稿にまとめる内容を整理する際に活用します。

うみやまかわ新聞 原稿作成準備シート!

①取材をした時のメモを参考に、自分の担当する記事でどんなことを書きたいのか、箇条書きで書いてみよう!

・ (例) 長谷深谷の楽しみ方について

②自分の担当する記事で一番伝えたいことは何だろう。①で考えた書きたいことの中から1つ選んでみよう!

③記事には写真やイラストを入れることができます。写真やイラストを入れることで、読む人にとって読みやすく、また多くの内容を伝えることができます。①②で考えた書きたいことや伝えたいことを紹介する写真やイラストはどのようなものを載せたらいいか、具体的に考えてみましょう!取材で撮影できなかった写真は借りることもできます。

<写真>

・ (例) 薄っぼに飛び込むところの写真

<イラスト>

・ (例) みんながシャワークライミングしているイラスト

原稿作成準備シート

うみやまかわ新聞 お礼状

さんへ

このたびは、うみやまかわ新聞の制作にご協力いただき、ありがとうございました。

学校名 _____ 学年 _____ 氏名 _____

お礼状シート

うみやまかわ新聞 発表シート

これまでの「うみやまかわ新聞」の授業を通じて、みんなで考えたこと、学んだことを発表しよう。

① みんなで考えた「うみやまかわ新聞」のサブテーマを発表しよう。

※他の地域の人が見てもわかるように、なぜ、そのテーマに決めたのか、理由も一緒に紹介しましょう。

② 新聞に掲載する内容(10項目)を紹介しよう。

※みんなで決めた「うみやまかわ新聞」に掲載する内容(10項目)を紹介しましょう。

③ ②で紹介した10項目の中から、「うみ」「やま」「かわ」について一つずつ選んで、授業で調べたり、取材してわかったことを発表しよう。

※自分が暮らしている地域のことを全く知らない人が聞いてもわかるように、「うみ」「やま」「かわ」それぞれの項目について、くわしく説明するようにしましょう。

発表会ワークシート

うみやまかわ新聞 学校紹介シート

長崎県対馬市立豊小学校・高知県佐川町立尾川小学校 学校紹介シート

長崎県対馬市立豊小学校はココ!

<長崎県対馬市>

- 人口: 32,590人 (国勢調査・平成27年10月1日現在)
- 面積: 約709km² (国土地理院・平成26年10月1日現在)

対馬は、九州最北端に位置する島で、本土5島(北海道・本州・四国・九州・沖縄本島)をのぞくと、佐渡島・奄美大島に次いで日本で3番目に大きな島。朝鮮半島までは最短距離で49.5km、福岡県博多までの海路は138km。

豊小学校についてメモ

- 生徒数
- クラスの人数
- 特徴

直線距離で約380km

尾川小学校についてメモ

- 生徒数
- クラスの人数
- 特徴

高知県佐川町立尾川小学校はココ!

<高知県佐川町>

- 人口: 13,455人 (国勢調査・平成27年10月1日現在)
- 面積: 約101km² (国土地理院・平成26年10月1日現在)

佐川町は高知県の中西部に位置する温暖湿潤な盆地状の町。その佐川町の西部にある尾川地区は、映画のロケ地としても選ばれるほど美しい景観を持っています。

学校紹介シート

6.1 2014 年度概要

2014 年度は北海道利尻島・東京都檜原村・愛媛県弓削島・大分県中津江村・沖縄県与那国島の 5 地域が参加。いずれの地域も平日の放課後や休日を使用して新聞作りを行いました。テレビ電話を使用した遠隔授業と合わせて、現地を訪問し授業を実施。

新聞は以下の 2 種類を作成しました。

- ・全国版 (24P) タブロイド判
- ・地域版 (4P) タブロイド判

※地域版については、基本的に該当地域内で配布しています。

発行部数：全国版：5000 部／地域版：利尻島 1500 部、檜原村 200 部、上島町 4500 部、中津江村 1500 部、与那国島 200 部、計 7900 部

参加人数：33 人 (小学 2～6 年生、中学 1～2 年生)



【愛媛県弓削島】

参加児童数：上島町立弓削小学校 6 年生、上島町立弓削中学校 2 年生有志

参加児童数：2 名

会場：せとうち交流館

使用コマ数：現地プログラム 3 回、Web 会議プログラム 3 回

地域コーディネーター：藤巻光加（上島町地域おこし協力隊・まるふ農園）



【大分県中津江村】

参加児童数：日田市立津江小中学校 6年生、7年生有志

参加児童数：2名

会場：中津江村公民館

使用コマ数：現地プログラム3回、Web会議プログラム3回

地域コーディネーター：河井昌猛（日田市地域おこし協力隊）



15 うみやまかわ新聞

2014年春

うみやまかわ新聞

大分県日田市中津江村版

津江の森のつなごうと水へあ

海へとつながる中津江の森

16 大分県日田市中津江村版

津江の森のつなごうと水へあ

17 日田市中津江村版

わぷ

つなごうと水へあ

18 かわ新聞

育てる工夫 苗床しいたげと

最大20度!? 中津江の寒暖差

19

7.1 2015 年度概要

2015 年度は北海道利尻島・千葉県いすみ市・千葉県富津市金谷地区・東京都江戸川区葛西地区・山梨県北杜市・長野県木曾町・兵庫県姫路市家島・愛媛県弓削島・高知県佐川町・大分県日田市津江地域・長崎県対馬島・沖縄県うるま市津堅島の 12 地域が参加。10 地域では小学校の授業として総合的な学習の時間に導入。2 地域については地域導入として、主に休日を利用して授業を実施しました。

新聞は以下の 2 種類を作成しました。

- ・全国版（16P）ブランケット判
- ・地域版（4P）タブロイド判

※地域版については、基本的に該当地域内で配布しています。

発行部数：全国版 5000 部／地域版計 27000 部

参加人数：210 人（小学 1～6 年生）

※地域コーディネーターの役職等は委託当時



7.2 2015 年度参加地域紹介

【北海道利尻町利尻島】

参加者：利尻町青少年リーダーの会「若葉」1～6年生

参加児童：23人

会場：利尻町交流促進施設「どんと」

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：高橋哲也（津田商店代表取締役）



The collage consists of four pages from a newspaper or magazine. Page 1 (left) is titled '利尻のシンボル 利尻山' (Rishiri's Symbol Rishiri Mountain) and includes a map of the island and the title 'うみやまかわ新聞' (Umiyama-kawa Newspaper). Page 2 (top left) is titled '利尻島について' (About Rishiri Island) and features a large green title. Page 3 (top right) is titled '利尻の川' (Rishiri River) and includes a map of the island and a diagram of the river system. Page 4 (right) is titled '北海道利尻島版' (Hokkaido Rishiri Island Edition) and features '利尻くんぶについて' (About Rishiri-kunbu) with illustrations of figures and a photo of a park.

【千葉県いすみ市】

参加学校：いすみ市立太東小学校 6年生

参加児童数：29名

会場：いすみ市立太東小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：磯木淳寛（フリーランス編集者(いすみ市在住)）



2019年度 うみやまかわ新聞

1 太東海浜植物群落とその周辺について

2 うみやまかわ新聞

3 豊かな海が広がる いすみ市

4 見ただけじゃないんだ いすみの菜の花

いすみの梨をつくる工夫

源氏ぼたる

いすみ市の秘密

いすみ市の橋

み方がたくさんある「夷隅川」

海とサーフィン

つも守ってくれる 東海台

【東京都江戸川区葛西地区】

参加学校：江戸川区二之江第三小学校 6年生

参加児童数：38名

会場：江戸川区二之江第三小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：宮嶋隆行（一般社団法人葛西臨海・環境教育フォーラム）



2019年春

うみやまかわ新聞

葛西地区に流れる新川

うみやまかわ新聞

江戸川区葛西地区版

小松菜の歴史と青家が名付け親

小松菜の生産

雷祭り！

魚について

堀口養魚場

葛西臨海公園・水族園

安心して暮らすための環境

昔の伝統、のり作り

新川の名所！！

女装で歩く

【山梨県北杜市】

参加学校：北杜市立高根西小学校 5年生

参加児童数：26名

会場：北杜市立高根西小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：徳永敦浩（一般社団法人里くら）



<p>1 うみやまかわ新聞</p> <p>国ちよう オオムササキの 住む里</p> <p>山梨県北杜市版</p> <p>うみやまかわ新聞</p> <p>ヤマネの ひみつ</p>	<p>2 うみやまかわ新聞</p> <p>北杜市版</p> <p>吐竜の滝について</p> <p>八ヶ岳の魅力</p> <p>ゆう水の魅力</p>	<p>3 うみやまかわ新聞</p> <p>北杜市版</p> <p>温泉のひみつ</p> <p>八ヶ岳の魅力</p> <p>オニツクリサギ</p>	<p>4 うみやまかわ新聞</p> <p>北杜市版</p> <p>北杜市で 1番おいしい 武川米の魅力</p> <p>地域にある川</p>
---	---	--	---

【長野県木曾町】

参加学校：木曾町立福島小学校 4・5・6年生、木曾町立開田小学校 5年生

参加児童数：7名

会場：コワーキングスペース「ZUNNE」

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：都竹亜耶（長野県木曾町農政課）



2019年度 うみやまかわ新聞

木曾の四季 ~ 秋物編 ~

うみやまかわ新聞

木曾の四季 食べ物編

春 朴葉巻

夏 とろろごし

「すんぎ」

木曾馬について

木曾漆器について

二本木の湯について

木曾の木遣り

木遣りについて

木曾川

木曾山

木曾川

木曾山

【愛媛県上島町】

参加学校：上島町立弓削小学校 6年生

参加学年児童数：17名

会場：上島町立弓削小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：藤巻光加（まるふ農園）



うみやまかわ新聞

未来に伝えたい
松原の風景

愛媛県上島町版

かわ新聞
なごらの
は最高!!

未来へつなぐ
海老い踊り

魚の方言名クイズ!!

弓削ののり!

知ってほしい! 若城島の〇レモン

みんなで守ろう!!
美しい島の自然文化

鳥の歴史

鳥のタイおどる!!

吉田 徳伝説

【長崎県対馬市】

参加学校：対馬市立豊小学校 5・6年生

参加学年児童数：8名

会場：対馬市立豊小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：細貝瑞季（対馬市島おこし協働隊）



<p>1 うみやまかわ新聞</p> <p>対馬で栄えた鮫組</p> <p>うみやまかわ新聞</p> <p>豊・鯉浦地区でとれる水産物</p>	<p>2 対馬の山と農業</p> <p>対馬の郷土料理「いりやき」</p> <p>対馬のめずらしい植物</p> <p>豊ながらのおやつ「かんころもち」</p>	<p>3 うみやまかわ新聞</p> <p>対馬の郷土料理「いりやき」</p> <p>対馬のめずらしい植物</p> <p>とつたご祭り</p>	<p>4 長崎県対馬市版</p> <p>日本で対馬にしかないツシマヤマメコ</p> <p>対馬と韓国のつながり</p>
--	---	--	---

8.1 2016 年度概要

2016 年度は北海道利尻町利尻島・千葉県いすみ市・東京都江戸川区葛西地区・山梨県北杜市・長野県木曾町・滋賀県近江八幡市沖島・岡山県真庭市・愛媛県上島町・高知県佐川町・大分県日田市・長崎県対馬市・鹿児島県屋久島町口永良部島・鹿児島県和泊町沖永良部島・沖縄県うるま市の 14 地域が参加。11 地域では学校の授業として総合的な学習の時間に実施。3 地域については地域導入として、主に休日を利用して授業を実施しました。また、江戸川区二之江第三小学校については、該当学年が 2 クラス編成のため、各クラスが 1 紙面を担当しました。

新聞は以下の 1 種類を作成しました。

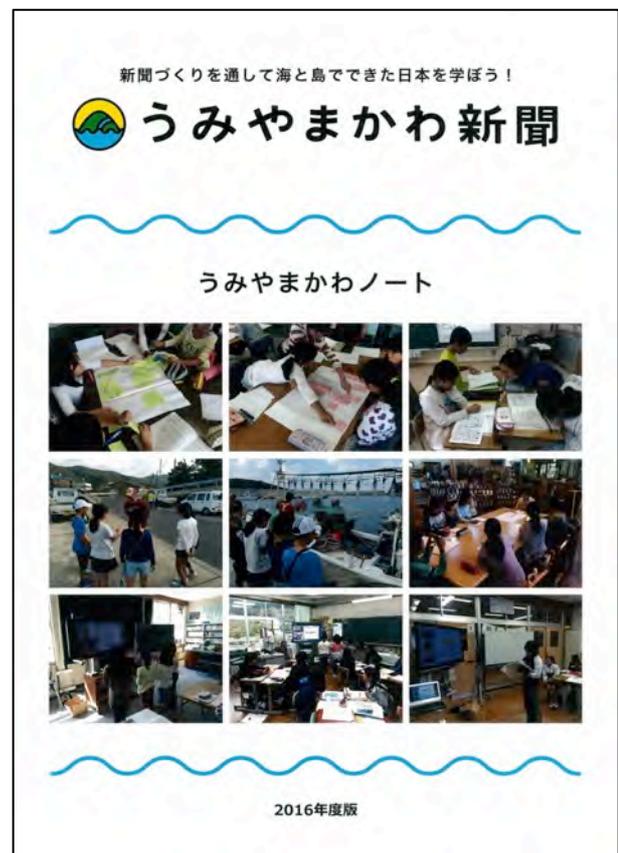
- ・ 全国版 (20P) タブロイド判

※各地域が 1 ページを担当

発行部数：30000 部

参加人数：223 人 (小学 3～6 年生)

※地域コーディネーターの役職はいずれも委託当時。



8.2 2016 年度参加地域

【北海道利尻町利尻島】

参加児童数：利尻町青少年リーダーの会「若葉」4年生～6年生

参加児童数：17人

会場：利尻町交流促進施設「どんと」

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：高橋哲也（津田商店代表取締役）



【東京都江戸川区葛西地区】

参加学校：江戸川区二之江第三小学校 6年生 2組

参加児童数：22名

会場：江戸川区二之江第三小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：宮嶋隆行（一般社団法人葛西臨海・環境教育フォーラム）

※一部授業は1組との2クラス合同で実施



うみやまかわ新聞 2016年春

東京湾の自然

お年寄りと障がいのある人をお助け。福祉施設

安全性を考慮 地下駐車場

減らしてみよう 放置自転車

古川親水公園

東京都江戸川区葛西地区版

お年寄りや障がいのある人をお助け。福祉施設

安全性を考慮 地下駐車場

減らしてみよう 放置自転車

古川親水公園

【山梨県北杜市】

参加学校：北杜市内の小学4・5年生

参加児童数：10名

会場：大泉農業体験の家

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：篠鉄平（一般社団法人里くら）



うみやまかわ新聞 2016年度

山梨県北杜市版

愛され続けている八ヶ岳

水にめぐまれている北杜市

北杜市の山から海に流れる川

日照時間 日本一の 明野町の ひまわり

国産オオムラサキって どんな様？

北杜市には豊かな自然が溢れています。その中でも、水は私たちの生活に欠かせない大切な資源です。北杜市では、水資源を大切に守り、持続可能な社会を実現するために、様々な取り組みを行っています。この新聞では、北杜市の水資源に関する情報を発信し、市民の理解と協力を促すことを目的としています。

【滋賀県近江八幡市沖島】

参加学校：近江八幡市立沖島小学校 3～6年生

参加学年児童数：9名

会場：近江八幡市立沖島小学校

使用コマ数：20 コマ

地域コーディネーター：富田雅美（沖島町離島振興推進協議会）



2016年度 うみやまかわ新聞 10

滋賀県近江八幡市沖島版

日本最大のナマズ
ピワコオオナマズ

沖島には琵琶湖の沖にあり、深大水質に人が住んでいない。日本最大のナマズです。琵琶湖には、これだけではない、琵琶湖産のナマズは10種類以上あります。代表的なナマズはピワコオオナマズです。ピワコオオナマズは体長1メートル以上ある日本最大のナマズです。

ピワコオオナマズは、1メートル以上の体長に達するナマズです。琵琶湖には、これだけではない、琵琶湖産のナマズは10種類以上あります。代表的なナマズはピワコオオナマズです。ピワコオオナマズは体長1メートル以上ある日本最大のナマズです。

人も固有種も困っている 外来魚問題

琵琶湖には固有種がいます。外来魚は固有種を食べてしまうので、固有種は数を減らしています。琵琶湖には固有種がいます。外来魚は固有種を食べてしまうので、固有種は数を減らしています。

世界につながる琵琶湖の湖

琵琶湖は世界に繋がっています。琵琶湖の水は、世界に運ばれています。琵琶湖の水は、世界に運ばれています。

昔から伝わる 元服の祭り

昔から伝わる元服の祭り。元服とは、17歳の時に髪を伸ばすことです。元服の祭りは、17歳の時に髪を伸ばすことです。

イノシシにさつまいもを食べられた

イノシシはさつまいもを食べました。イノシシはさつまいもを食べました。イノシシはさつまいもを食べました。

【岡山県真庭市落合地区】

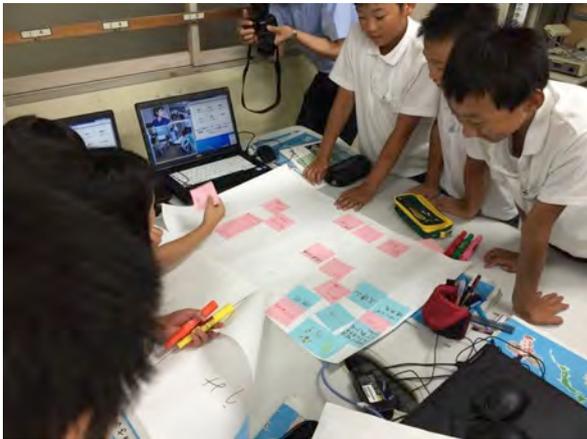
参加学校：真庭市落合小学校 6年生

参加学年児童数：30名

会場：真庭市落合小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：西本恭子（真庭市交流定住センター）



11 うみやまかわ新聞 2016年度

岡山県真庭市落合地区版
 制作：真庭市落合小学校6年生
 発行：真庭市交流定住センター

輝け！ホタルと落合の未来！

真庭市落合地区には、美しい自然環境と、豊かな文化があります。その中でも、ホタルの生息地として知られる「注連山」は、落合地区のシンボルとなっています。今年、注連山のホタルの生息地を調査し、その現状を把握しました。また、ホタルの生息地を守るための取り組みも行っています。この取り組みを通じて、注連山の未来を輝かせたいと思います。

1つ目は、ホタルの生息地を守るための取り組みです。注連山には、ホタルの生息地として知られる「注連山」があります。この注連山には、ホタルの生息地として知られる「注連山」があります。この注連山には、ホタルの生息地として知られる「注連山」があります。

2つ目は、注連山の歴史を伝える取り組みです。注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

3つ目は、注連山の未来を輝かせる取り組みです。注連山には、未来を輝かせるための取り組みがあります。この注連山には、未来を輝かせるための取り組みがあります。この注連山には、未来を輝かせるための取り組みがあります。

未来につなげる注連山の木材

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

伝えたい！注連山に昔存在した城

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

きれいにしよう備中川

備中川は、真庭市のシンボルです。この備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。この備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。この備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。

備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。この備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。この備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。

備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。この備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。この備中川には、きれいにしようという取り組みがあります。

注連山地蔵めぐりマップ作り

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。この注連山には、古くから「注連山」の歴史があります。

【長崎県対馬市】

参加学校：対馬市立豊小学校 5・6年生

参加学年児童数：8名

会場：対馬市立豊小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：細井尚美（対馬市在住）



【鹿児島県和泊町町沖永良部島】

参加学校：和泊町立大城小学校 6年生

参加学年児童数：10名

会場：和泊町立大城小学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：古村英次郎（一般社団法人おきのえらぶ島観光協会）



17 うみやまかわ新聞 2016年度

鹿児島県和泊町沖永良部島版

偉大なる王、世の主

かつて、鹿児島県・沖永良部島を治めていた王様。かつて、鹿児島県・沖永良部島を治めていた王様。かつて、鹿児島県・沖永良部島を治めていた王様。

ジャガイモの盛んな島

ジャガイモの収穫が盛んな島。ジャガイモの収穫が盛んな島。ジャガイモの収穫が盛んな島。

珊瑚ってなあに？

珊瑚の生態と保護の重要性について説明します。珊瑚の生態と保護の重要性について説明します。

大切にしよう！絶滅しかけた南の島の鯛魚

鯛魚の生態と保護の重要性について説明します。鯛魚の生態と保護の重要性について説明します。

【沖縄県うるま市津堅島】

参加学校：うるま市立津堅幼・小・中学校 3～6年生

参加学年児童数：7名

会場：うるま市立津堅幼・小・中学校

使用コマ数：20コマ

地域コーディネーター：喜久川望（一般社団法人ジョブリッジ研究所）



2016年度 うみやまかわ新聞 18

沖縄県うるま市津堅島版

白と青の天然ビーチ

トコライビーチは津堅島の海岸にあり、毎年15月に行われる天然ビーチのイベントです。トコライビーチは、美しい海岸と、新鮮な海の幸が楽しめるスポットです。また、ビーチには、様々な種類のビーチグッズが販売されています。このイベントは、家族で楽しむのに最適な場所です。

子ども宝の泉「ホートツガ」

津堅島の宝は、天然のミネラルウォーター「ホートツガ」です。この水は、島の地下深くから湧き出た天然の水で、ミネラルが豊富です。また、この水は、島の歴史と文化を伝える役割も果たしています。ぜひ、この宝水を飲んでください。

あまくておいしい津堅のいも

津堅島のいもは、甘くておいしいです。このいもは、島の気候と土壌によって育ちます。また、このいもは、様々な料理に使われています。ぜひ、このいもを食べてください。

心が1つになるお祭り「マータンコー」

毎年11月14日に行われるマータンコーは、島の人が心を一つにするお祭りです。このお祭りは、島の歴史と文化を伝える役割も果たしています。ぜひ、このお祭りに参加してください。

女性のみで行われる「ウシ(ス)デーク」

ウシ(ス)デークは、毎年10月11日に50歳以上の女性を対象としたお祭りです。このお祭りは、女性の健康と交流を促進する役割も果たしています。ぜひ、このお祭りに参加してください。

9.1 教員・地域コーディネーターの声

各年度、カリキュラム終了後にアンケートを実施し、海洋教育への理解度、カリキュラム内容の適切さ、ICT 機器の利用状況等について担当教員および地域コーディネーターの意見を集め可視化しました。年度ごと、質問項目ごとに集計結果を記載します。

※2014 年度については 5 地域での地域導入で実施いたしました。そのため、集計に必要なデータ数がなく、いただいたコメントを抜粋して掲載しています。

<2014 年度>

・利尻島は参加した子どもたちが小学校 2 年生～6 年生までと幅広かったため、高学年は内容を理解していましたが、低学年には難しい内容だったかもしれません。ただ、海に囲まれ、利尻山という山がある島の特性・特徴を小学生の段階で知ることは、とても意義のあることだと思います。また、ICT を活用したテレビ電話会議での会話をみんなが楽しんでいたので非常に印象的でした。

・着地点が見えないなかでのスタートだったので、どこまでフォローできるのか、地域コーディネーターとしてはとても不安がありました。それでも、子どもたちが楽しそうに参加し、図書館などを活用して積極的に島のことを調べたりしていたので、非常によかったと思います。

・檜原村の子どもたちは、地域の歴史や文化財などにはとても詳しいが、それをちゃんと地域外の人へ説明したことがないため、今回のプログラムはとてもよかったと思う。また、同じ地域に住んでいる大人でも、普段どんな仕事をしているのか、このプログラムを通じて知った子どももいたので、地域内の交流促進という面でも内容のある取り組みでした。

・課題などがあり、当初の予定よりも子どもたちの拘束時間が長くなり、子どもたちにとって若干の負担があったと思います。ただ、この新聞作りを通じて上島町の 2 名の子どもたちはとても仲良くなり、発表会で会った他地域の子ともお友達になれました。もともと積極的にコミュニケーションを取るタイプではなかったのですが、今回のプログラムのような共通点や共有体験が子どもたちには大切なのだと思いました。

・子どもたちにとっては非常に貴重な体験だったと思います。全体の日程的に学校終了後の放課後を活用しての実施だったため、学校の宿題、部活動、習い事などの合間を縫っての作業となり、2 人にはとてもハードだったかと思いますが、自分の暮らしている地域の魅力を掘り起こそうとがんばってくれました。とても充実した内容だったと思います。次年度も同様のプログラムを実施するのであれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。

・今回は大変貴重な機会をいただきました。プログラムを通じて、2 人もたくさん感じるものがあつたようで、発表会後の飛行機では自分たちの地域のことや、他地域のことなど、楽しそうに話していました。このプログラムに参加する子どもの輪をもっと広げていけるように、今後もお手伝いさせていただきたいと思います。

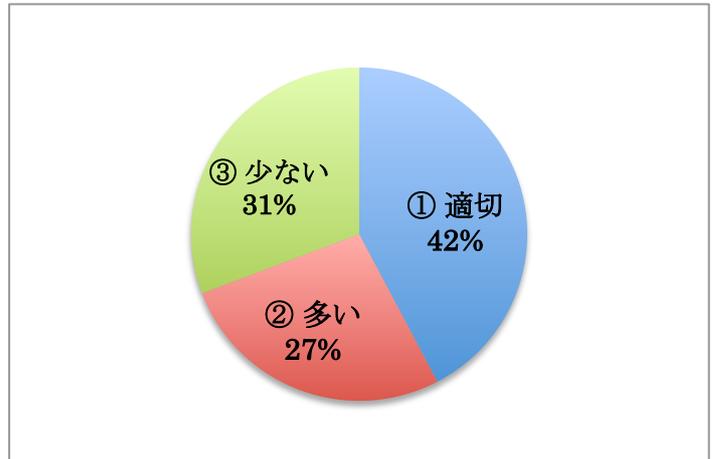
<2015 年度>

▼スケジュールについて

Q.1：年間通しての実施時間数（当初想定 20 時間）はいかがでしたか？

A.1：①適切だった ②多い ③少ない

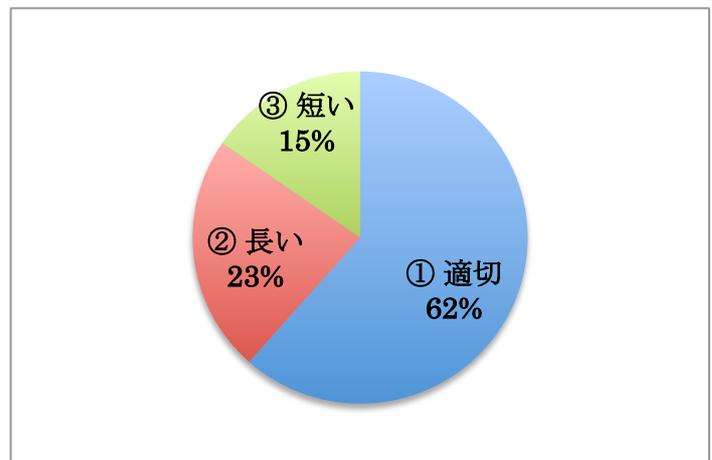
①適切だった	11
②多い	7
③少ない	8



Q.2：毎回の授業時間内での時間設定（各項目にかける時間）はいかがでしたか？

A.2：①適切だった ②長い ③短い

①適切だった	16
②長い	6
③短い	4



Q.3：Q1、Q2 について、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

実際にかかったコマ数や授業実施における理想的なコマ数も教えてください。

◎良かった点

- ・地域導入で休日開催であるため、年間時間数は全 8 回・各回 2～6 時間程度が適正と感じた。
- ・家島では 1 コマでの実施が多かった印象ですが、ちょうどよかったと感じた。

・テレビ電話を使つての授業は今年度の時間設定で良いと思います。地域、学校によつて、追加の時間を使つて指導するのは当然なので、最低限の時間数で良いです。

◎反省・改善点

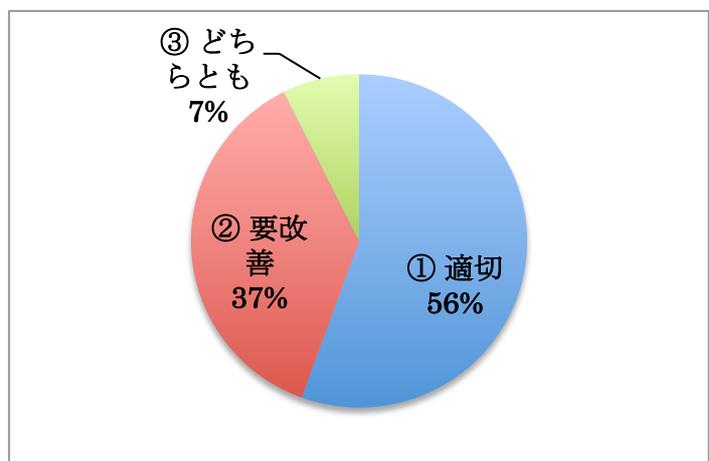
- ・カリキュラム実施前に地域側で簡単な取材や素材の準備をしておくとう率率的。
- ・うみやまかわ新聞にかかる 20 時間は良かったが、実際には準備等で他の時間を使用しプロジェクトとしては 30 時間程度使用した。年度当初にそのような計画にすれば良かった。
- ・取材と執筆にかける時間について配分が短い一方で、そこに至るまでの座学系の授業がやや間延びしている感があるので、再考の余地があるかもしれません。
- ・チーム決めをするときにチーム名を決める時間があればよかった。
- ・規定コマ数に以外にかかる時間をあらかじめ伝えてもらえると、学校的には計画的に取り組めると思います。
- ・原稿作成の時間が少なく、プログラムの前半部分をもう少し後ろに回したい。
- ・取材や原稿制作の時間が足りなかったです。計画の 2 倍は必要と感じました。足りない分は放課後の時間を活用しました。
- ・20 時間は少ない。授業外での取り組みも多かったなので、30 時間は必要だと思う。
- ・テレビ電話を使用する授業以外にプラス 10 時間ほど原稿作りに使用しました。宿題として出せたのはわずかだったので、取材、原稿制作の部分をもう少し長めに想定してもらえるとありがたい。多くとも 25 コマ程度に収めるのがいい。
- ・2 学期からの負担が大きすぎる。5 月から初めて夏休みを有効に使えるようにする。

▼授業内容について

Q.1：全体のカリキュラムについて、各単元の構成・実施順等はいかがでしたか？

A.1：①適切だった ②改善した方がよい ③どちらとも言えない

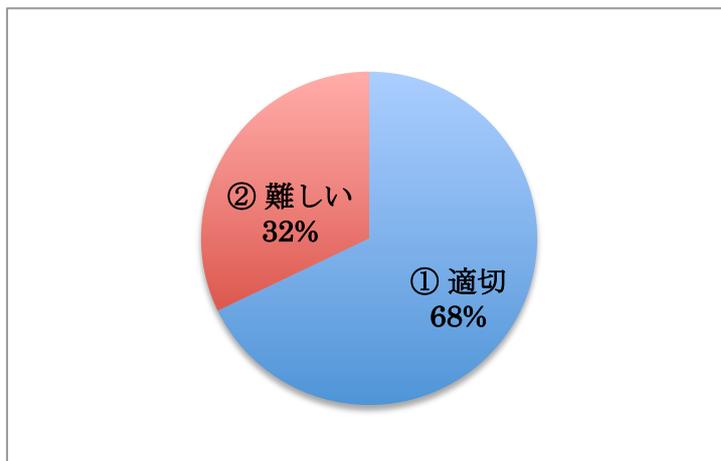
①適切だった	15
②改善した方がよい	10
③どちらとも言えない	2



Q.2：小学校5・6年生を対象にしていますが、児童にとっての難易度はいかがでしたか？

A.2：①適切だった ②難しかった ③簡単だった

①適切だった	19
②難しかった	9
③簡単だった	0



Q.3：授業カリキュラム、各單元について、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

◎良かった点

- ・子どもたちに分かりやすく、申し分のないカリキュラムでした。
- ・カリキュラム構成はバランス良く進めやすい。
- ・4、5年生には難しいと感じる部分もあったが、テレビ電話を通じてわからなかったことを理解していく様子が見られたので、学年に対して厳密な設定はいらなかったと感じた。
- ・新聞制作にあたり、メディア、インターネットについての授業はわかりやすく勉強になった。

◎反省・改善点

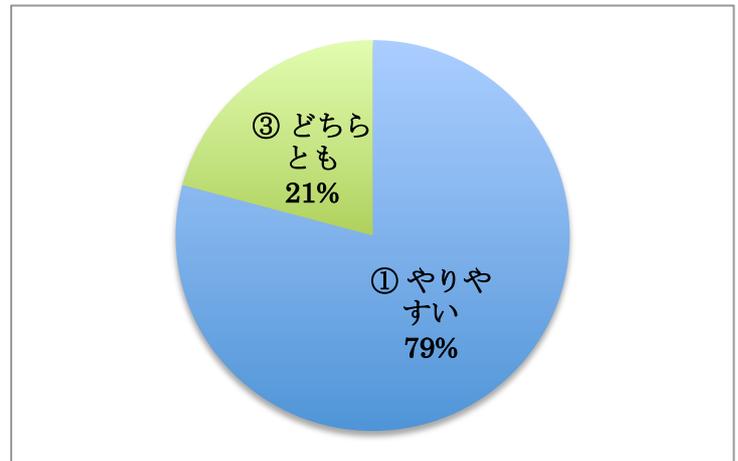
- ・取材と新聞作成がカリキュラムの後半に位置付けられていたため、もっと前半に位置付けられれば取材など時期的な面でもよいと思います。
- ・人数が多い学校だと、それぞれの班の発表の時間でさえも、時間が取られてしまうため、班分けは4班程度にする方がいいような気がしました。
- ・記事を書くこと、取材について、5年生で初めて行う学習なのでもう少し詳しく教えていただきたいです。
- ・子ども達に記事を書かせるなら、もっとじっくり見直し、書き直しする時間が必要。また、直しの際には事務局やコーディネーターの協力が欲しかった。
- ・インターネットや本、資料から10項目を選び、それぞれが調べたことをつなげ、地域の新たな価値の発見に導くのはかなりの労力でした。新聞の目的、テーマの意識付けを重点的に行えると良いです。

▼Web 会議システムについて

Q.1：テレビ電話の活用について授業の進行はいかがでしたか？

A.1：①やりやすかった ②難しかった ③どちらとも言えない

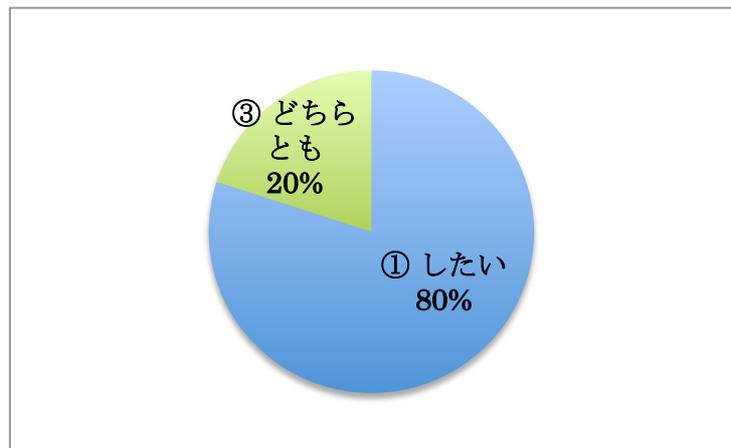
①やりやすかった	19
②難しかった	0
③どちらとも言えない	5



Q.2：テレビ電話を別の授業でも活用したいと思われますか？

A.2：①活用したい ②活用する必要はない ③どちらとも言えない

①活用したい	20
②活用する必要はない	0
③どちらとも言えない	5



Q.3：Web 会議システムについて、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

◎良かった点

- ・子どもたちにとってテレビ電話会議システムは初めてなので興味もあり、学校の授業ではなかなか体験できないことなので楽しそうでした。
- ・他校と接続した時は盛り上がり、学校や PTA にも最先端さが喜ばれる。
- ・休憩時間を使用し、画面を通して子どもたちと講師がインタビューし合うと良いアイスブレイクになった。
- ・遠く離れた、沖縄、東京、対馬、利尻との交流は興味深くおもしろいという子どもたちの感想が多く聞かれました。
- ・テレビ電話会議システムは専門家に直接指導していただける点や、学校同士で接続する

ことにつながりやちがい、地域性に気づくことができた。

- ・2次元の世界に向けて発表することで、子どもたちはのびのびと発表でき、自分らしさを表現できました。
- ・双方向のやりとりは一番印象に残っています。あまりの時間を使つての講師とのやりとりもとても楽しそうでした。
- ・コーディネーターが毎回の接続を行っていただいたので、スムーズに授業を行えました。

◎反省・改善点

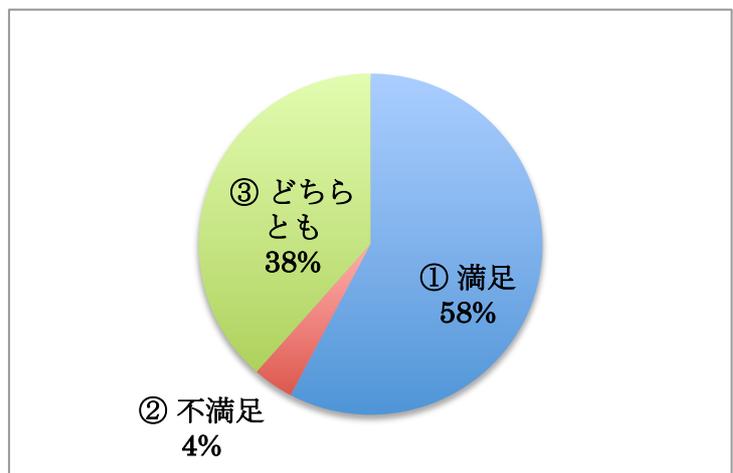
- ・他校との新聞作りに関する交流ができたならもっと良いと思いました。
- ・初めは教室のテレビを使用したか、児童の集中がもたなかったため、PCルームで1人1台の画面がある環境で行う方が集中していた。
- ・子どもによっては声が小さく音声が聞き取りづらいこともあり、コミュニケーションの取り方で指導が必要と感じた。
- ・技術的な部分なので、仕方ないですが、音声の時間的なズレがあり、聞き取りにくいときがある。
- ・一方的な会話になると、子どもたちの集中力が切れてしまいます。双方向の学び合いがリアルタイムでできるとさらに深い学びになるでしょう。
- ・地域のみで行う取材時なども、テレビ電話を接続したい。
- ・初回など、テレビ電話がうまくつながらない時は困った。

▼運営体制について

Q.1：プログラム全般に対する運営の質はいかがでしたか？

A.1：①満足 ②不満足 ③どちらとも言えない

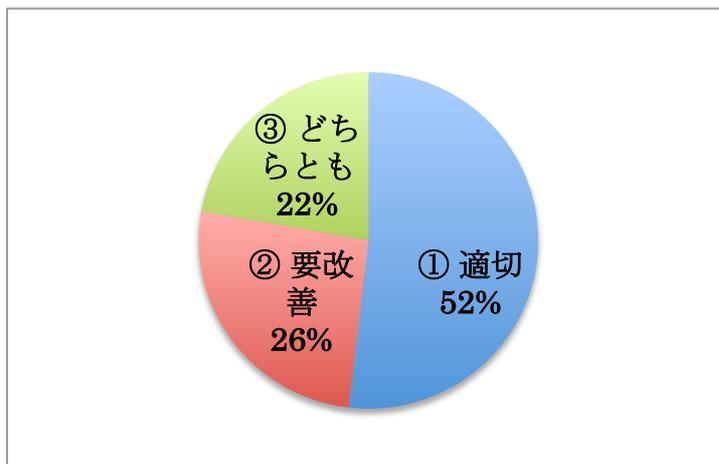
①満足	15
②不満足	1
③どちらとも言えない	10



Q.2：事務局の運営体制についてはいかがでしたか？

A.2：①適切だった ②改善が必要 ③どちらとも言えない

①適切だった	14
②改善が必要	7
③どちらとも言えない	6



Q.3：本プログラムの運営全般（進行管理や媒体制作、体制などでも）について、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

◎良かった点

- ・進行や媒体制作も内容の濃い充実したものになっていました。
- ・毎回しっかりと当日の進行をご指示いただきました。
- ・子どもたちをほめてやる気にさせ、評価をきちんとされているところはよかったです。
- ・新聞取材やテレビ会議に必要な機材が揃っており、本当の取材でも、この機材があれば十分なのではないかと思えます。ハード面においても人的支援についても本物に触れられたのは大きな財産です。
- ・先生がやる気のある方だったので、コーディネーターの役割に戸惑うこともありましたが、毎回進行表を送っていただいたので、動きやすかったです。

◎反省・改善点

- ・原稿 **FIX** のスケジュールがタイトであせった。
- ・地域コーディネーターの立場上、先生と事務局のフォロー役に徹した訳ですが、当初は、コーディネーターも含めた事務局サイドで、授業をリードするイメージでお聞きしておりましたが、進行では宿題前提だったため、先生へのご負担が多かったように思います
- ・取材は、結局 1カ所のみで、その他のひとは学校の授業の時について行ってもらい、また、2つは取材先インタビューの相手方に来校していただいた訳ですが、リアリティに欠けたように思いました。
- ・学校をターゲットに考えて進めるのであれば、原稿制作にかかる時間をもう少し長く考えてほしい。
- ・発表会にかかわる準備等も細かく出していただかないと児童も保護者も不安になってし

まいります。

- ・取材、原稿制作のスケジュールが非常にタイトでした。
- ・参加児童の保護者から、あらかじめ年間のスケジュール表が欲しかったと意見がありました。
- ・締め切りが急なことがあり、子どもたちが休み中で投稿していない時に連絡があり困った。
- ・学校における学期末は、学習等のまとめ、保護者会、懇談、通知表作成などで大変忙しい。その時期に担任等に相当な負担がかかっていたことは運営者としてわかってほしい。
- ・人員が足りていないと思います。締め切りの連絡やその他の連絡についても遅いなど思うことや、連絡がこないこともありました。スケジュール管理や連絡手段の見直しをご検討していただきたい。
- ・コーディネーターへの講習が大切だと思います。
- ・進行スケジュールの共有がいつもギリギリでした。

▼その他

Q1：次年度に向けた改善点や年間通じて、プログラムへのご意見・ご要望など、お聞かせ下さい。

◎良かった点

- ・取材先とのアポを通して、取材先の方々と仲良くなれたのは個人的によかった。
- ・プロの方から新聞作りを学び、他地域との交流、地元の良さの再発見など本当に良い学習でした。
- ・新聞が完成した時の子どもたちの喜び、保護者の喜びは忘れられません。
- ・児童にとって新聞作りを本格的に行えたことは、とてもいい経験となりました。大変だった分、新聞を手にした時の感動は大きかったようです。このような実体験ができる授業をこれからも続けていきたいです。
- ・子どもたちがいろんな体験をでき、地域の方にも喜ばれ、東京にも行かせていただき、有意義な活動でした。
- ・子どもたちも進んで取り組んでおり、とても意義のある活動でした。
- ・前津江や天ヶ瀬など、他地域への展開はいかがでしょうか。
- ・うみやまかわ新聞の取り組みをもっと全国に発信されないのでしょうか？全国に広めていきたい、その価値があると思います。
- ・海外の学校ともできたらおもしろそうだと思います。
- ・島の良さを見つけ、課題を立て、取材、原稿制作を通して郷土愛やコミュニケーション能力を高めることができたと思います。

◎反省・改善点

- ・地域ごとの創意工夫を全面に押し出す感じがあってもよかった。
- ・実際に手を動かす体験的な取材のコーナーを入れたい。

- ・始める時期を早くしたほうが、時間的余裕がある。
- ・地域導入の場合、午前中に取材を行い、午後に原稿作成などうまく時間を使いたい。
- ・3年目になるので、1、2年目に事業に参加した中学生を活用していきたい。
- ・進行や媒体制作など、今年度のボリュームが限界と感ずるので、いかにして楽しい授業にするか、子どもたちの意思で動いてもらうようにするかが大事です。
- ・最初の授業の冒頭で、生徒に対し地域コーディネーターが自己紹介できる時間が欲しかった。3回目くらいまで、何者なのかと思われているように感じた。
- ・生徒が原稿制作を宿題で持ち帰った時に Web 等の丸写しが多く、その校正が大変だった。宿題にしたことが原因なのか、Web 等の丸写しはいけないということをはっきり伝えることが不足していたかも。
- ・生徒数が多く（29名）、取材先に出かけられなかったことが残念。もう少し取材先にアポを取ってれば学校のバスを出せたかもしれないので残念。
- ・原稿を書く子とイラストを描く子のバランスを取るのが難しかった。絵を描く子は私語をしてしまうし、私語でガヤガヤすると原稿を書く子がなかなか進まない。
- ・完成した新聞の配布は授業内で時間をとって行いたい。その瞬間に一番感想が出そう。
- ・導入の段階で、教師側にしっかり負担があることを伝えておいてほしかった。
- ・新聞の原稿作成の際の見通しが見えなかったので、修正、先方確認の日程もあらかじめ分かっているとやりやすかった。
- ・学校の総合学習では、何年も継続している授業があり、この新聞作りも継続性前提を持ってもらう仕組みを、もう少し加味した構成にした方がいいように思いました。
- ・学校の授業では連携の難しいライターやカメラマンなど、専門的なレクチャーが入るとよりよい。
- ・授業時間内で考えて、まとめて、記入回答するのが大変な単元に関しては、負担にならない程度の宿題を設けてもよいと思う。
- ・最初の授業で去年の新聞を見せると同時に、東京での発表会の様子を動画で見せたりなどすると制作意欲の向上につながると感じた。
- ・連絡のメールが地域コーディネーターさんにだけ送られ、学校側には転送される仕組みが不思議だった。メールの中で、家島には届いていないものがあり、しっかり確認してほしい。
- ・原稿作成では、校正、取材協力者のプロフィールなど予測していない指示が多く、余裕を持ったスケジュールを組みたい。
- ・授業で発表する内容を事前に予習として準備できると、スムーズになるが、その場合、学校との打ち合わせが重要になります。
- ・一人一人の課題意識が明確になるプログラムに改善する必要があると感じます。
- ・20時間におさまる程度の授業カリキュラムの見直しが必要。

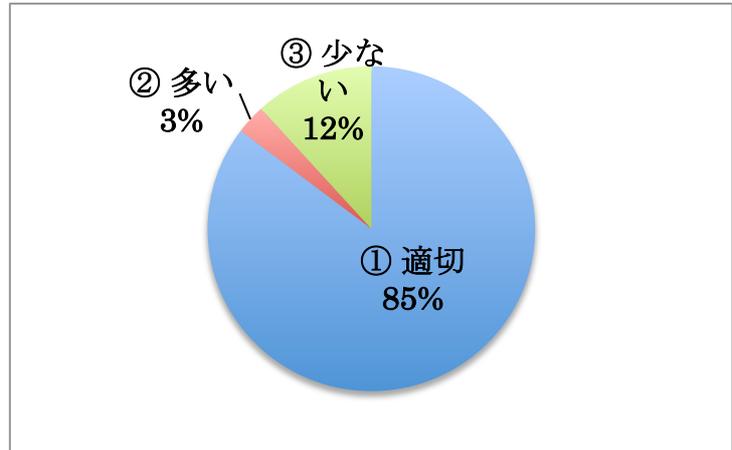
<2016 年度>

▼スケジュールについて

Q.1：年間通しての実施時間数（当初想定 20 時間）はいかがでしたか？

A.1：①適切だった ②多い ③少ない

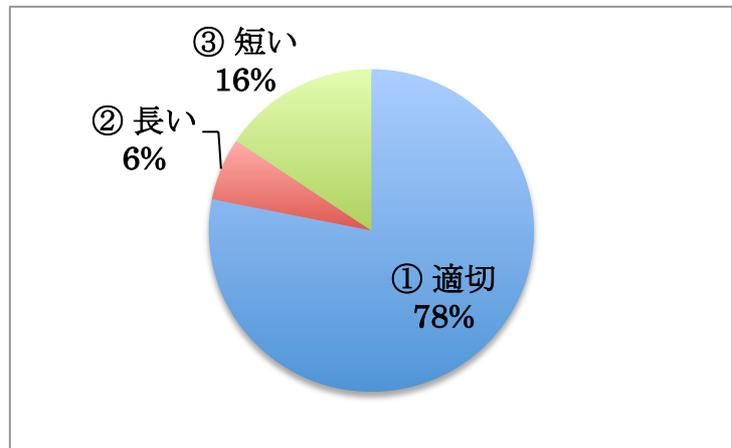
①適切だった	29
②多い	1
③少ない	4



Q.2：毎回の授業時間内での時間設定（各項目にかける時間）はいかがでしたか？

A.2：①適切だった ②長い ③短い

①適切だった	25
②長い	2
③少ない	5



Q.3：Q1、Q2 について、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

実際にかかったコマ数や授業実施における理想的なコマ数も教えてください。

◎良かった点

- ・新聞作りの学習はとても有意義だった。今年は「福祉（学年での総合テーマ）」に合わせてもらったので、スムーズに進められた。
- ・昨年と比べて贅肉がとれた感じでとてもよかったです。
- ・前半の接続授業については、時間設定は適切でした。

・5、6年生であれば適切だったと思います。本校の場合、3年生以上で取り組んでいたの
で、特に3年生はもう少し多く時間を取りました。ただ、カリキュラムとして20時間は
妥当だと感じました。

・TV会議で他校とつなげ、他校の児童と話せたのがとても楽しかったです。毎回でもよ
かった。

・深く学ぶためには、もう少し時間数が多い方が良いと思いますが、現実的には20時間で
ちょうどよいと思います。学校の希望に応じて、補習の授業を設けてもよいかもしれませ
ん。

・取材や原稿作りなど授業とは別に行った作業も多かったです。それでもスケジュール（授
業数など）はこれで良かったと感じます（これ以上増えていたら負担になりそう）。

◎反省・改善点

・30時間くらいが適切かなあ。内容によって長いところと短いところがあったと思う。

・2クラスでの取り組みだったので、2時間続きでとれるコマが本当に少なく苦労した（専
科等の授業があるため）。

・後半の原稿づくりで時間内の作成は難しく、宿題として各家庭で仕上げてもらおう形にな
り、ご家族の負担が大きいように感じました。発表会の練習もほとんど時間がありません
でした。理想は原稿づくりであと2コマ、発表会練習であと2コマです。

・取材やその準備などに必要な時間が想定していたよりも多くあったようです。

・1コマで教えてもらい、子どもが考えてまとめるとなると時間が少なく感じてしまう場
面が多くあった。

・子どもの意識の流れを上手にもっていくことがアクティブラーニングにつながると思う
ので、上記コマ数と同じくらいの時間を総合的な学習の時間にとり、授業に取り組んだ。

・テレビ電話をつないでの授業コマ数は20時間程度で良かったが、取材のための体験や見
学、インタビューなどの時間は5項目で10時間くらいはかかった。

・記事制作後の交流を1校とだけではなく、2校ぐらいあるとよかったかなと感じた。

・記事にするまでの取材活動はやはり時間がかかりました。取材先へのコンタクトや取材、
次への課題などを整理していく時間がかかります。本校では、授業で取り組んでいたの
で、いくらでも調整ができますので、さほど問題ではありませんでした。

・全ての記事を直接取材で行ったので、実際には、6回目の授業も入れると5回を取材の
ために使いました。でも、調べただけの記事よりも実際に会って伺った取材はとても重み
があると感じました。

・はじめのテーマ決めに時間がかかった。しかし、1番重要な部分だと思うので、本年度
の流れで良いと思う。各校、授業で週1時間ずつ『学級活動』という授業がある。この授
業は、自分たちに関する内容を話し合う時間である。可能ならその時間を使い、話し合わ
せるのも1つの手段だと思う。

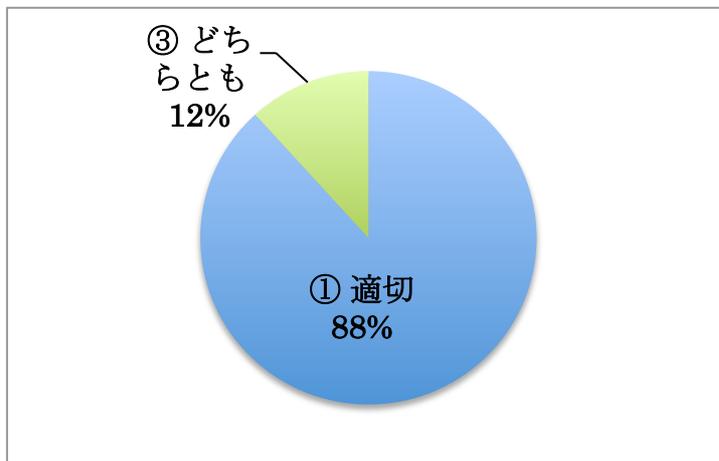
・子どもたちの宿題等、授業外でやることの時間確保が大変だった。そういう場合、「次回
は2週間後」とかであったら助かる。

▼授業内容について

Q.1：全体のカリキュラムについて、各単元の構成・実施順等はいかがでしたか？

A.1：①適切だった ②改善した方がよい ③どちらとも言えない

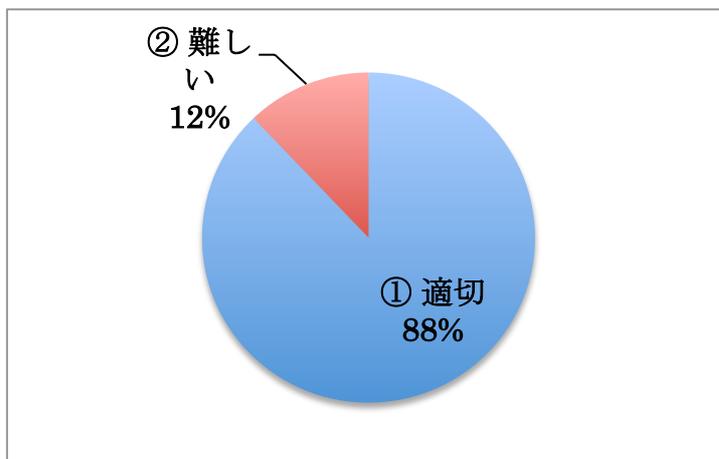
①適切だった	30
②改善した方がよい	0
③どちらとも言えない	4



Q.2：小学校5・6年生を対象にしていますが、児童にとっての難易度はいかがでしたか？

A.2：①適切だった ②難しかった ③簡単だった

①適切だった	29
②難しかった	4
③簡単だった	0



Q.3：授業カリキュラム、各単元について、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

◎良かった点

- ・情報リテラシーの学習にもつながってよかった。
- ・昨年度よりよくなっていたと思います。
- ・昨年度の実績を踏まえてよく練られていたと思います。
- ・記事数が削減されたことで、各単元の理解をより深めることに集中できてよかった。各単元のポイント！が授業後に新聞づくりをしていて、振り返りや確認に役立っていた。
- ・見た感じでは5年生より6年生の方がしっかりと理解しているように見受けられました。しかし、そこまでの大差はなく、(少し集中が続かない時もありましたが) みんなしっかりと理解し、次のステップに進んでいました。

- ・調べたいことから新聞記事の書き方まで詳しくスモールステップで進めていただいて、どの子にも分かりやすかったと思う。
- ・6年生が2回目のうみやまかわ新聞なので、5年生がとまどっていたら、うまくリードしたりフォローしたりしてくれました。
- ・テキストもとても分かりやすくて良かったと思います。

◎反省・改善点

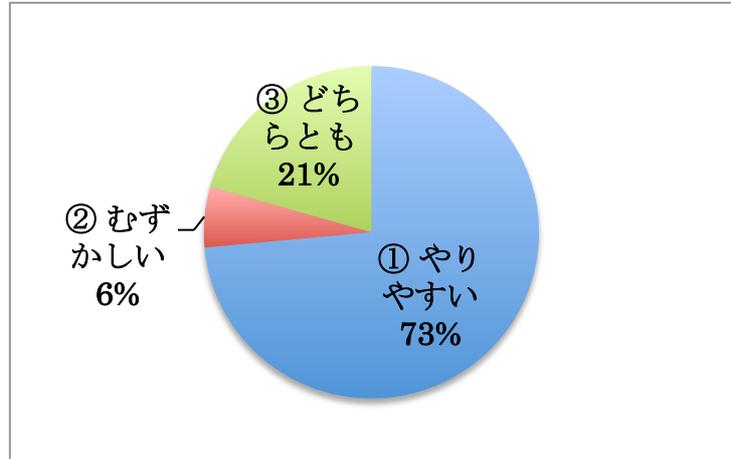
- ・難易度的には適切だと思いますが、どうしても個人の能力の差がでてきてしまい、よりかみくだいて説明しないと分からない子も多かった。
- ・学校授業に合わせた単元のため、地域導入の場合だと細かい動きのあるコマが大変だった。
- ・原稿は一度、参考記事などを模写するとコツがつかみやすいかと思いました。
- ・発表会の練習は前年の映像を見せるなどして、場のイメージをもってもらおうとモチベーションが上がり、クオリティも上がると感じた。
- ・本校は3年、4年も一緒でしたので、その学年にとっては難しかったですが、貴重な体験になりました。
- ・調べ学習に入る前に、おさえる内容（著作権）がわりと多いので、学校側で新聞作りについて復習をしておけばよかったと思いました。
- ・5、6年生対象なのでこのくらいでよかったと思うが、本校では3年生から取り組みをしたので、3、4年生（特に3年生）にとっては大変難しかったようです。
- ・カリキュラムに沿ってやるので、やらされている感じがあった。自主的につなげるにはカリキュラム以外での学習が必要。
- ・全体の内容は良かったと思います。せっかくオンラインなので、そこを活かした部分（情報共有とか交流とか）がもっと強いといいなと思います（他地域から見た自地域の強みの発見などの内容）。
- ・お礼状を書くのが、現在のスケジュールだとものすごく遅くなるので、取材後すぐに出せた方が良くと思います。
- ・単元を通して新聞作りをすると、新聞のテーマ（本校では、上対馬と韓国の今と昔、そして未来へ）が具現化されていくと思います。テーマにせまるような授業構成があるともっといいと思いました。最後の授業か、発表会前の授業で設定するともいいかもしれませんね。
- ・今回、小4と小6が参加しましたが、小4には少し難しかったように思いました。自分の地域の学習、新聞作りにはさほど感じませんでしたが、他地域との交流時の理解度、他地域の新聞の読み込みなどは時間が必要そうでした。小6の児童にはちょうど良さそうでした。
- ・次回の授業ではこんな内容を予定しています、など予告をしてもらえれば子どもたちもネタを準備できたかなと思いました。例えば、次回はP10～14をやります、みたいな。

▼Web 会議システムについて

Q.1：テレビ電話の活用について授業の進行はいかがでしたか？

A.1：①やりやすかった ②難しかった ③どちらとも言えない

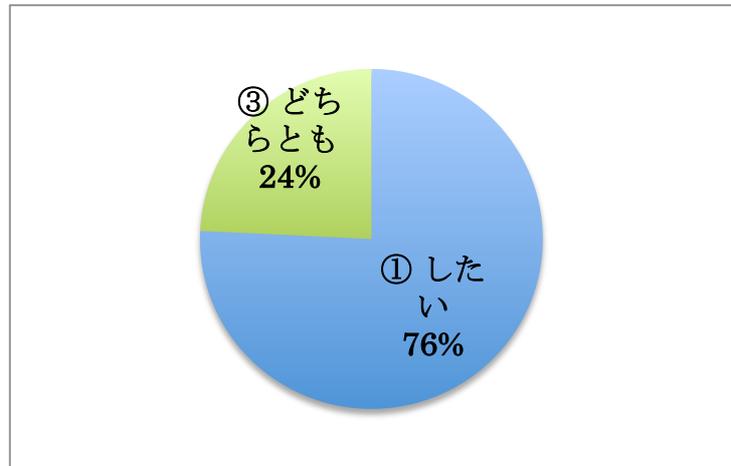
①やりやすかった	25
②難しかった	2
③どちらとも言えない	7



Q.2：テレビ電話を別の授業でも活用したいと思われますか？

A.2：①活用したい ②活用する必要はない ③どちらとも言えない

①活用したい	25
②活用する必要はない	0
③どちらとも言えない	8



Q.3：Web 会議システムについて、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

◎良かった点

- ・集中して授業を受けることができるのですごく良いと思います。特に他地域とつないで授業をする時はいい緊張感をもってできるので、今後も導入した方がよいと思います。
- ・面識を持った上で主に松本さんが講師としてテレビ会議を進行してくださる形式は子どもたちにとってもより興味を深める助けとなったと思う。
- ・本校をはじめとするへき地校には必須アイテムでした。
- ・ネットの向こうの人にも人格があることなどネットリテラシーの側面でもよかったです。
- ・他校との交流学習がとても良かった。遠く離れた地域のことが身近に感じられ、仲良くなれた。東京発表に行った際も、今年交流した大城小や昨年度の豊小学校の児童とは前か

らの友達のようにすぐ打ち解けていた。

- ・他に地域との交流で活用したい。
- ・特に問題なくスムーズに使用できました。
- ・離島においてはテレビ電話会議を使って他の学校で行われている授業を一緒に受けるということが近い将来あるかもしれない。子どもたちにとってとてもよい経験だったと思う。
- ・テレビ電話会議システムは、離島経済新聞社のような専門家と連携したり、同じような環境に暮らす日本各地の小学校と繋がったりするのが、とても意義があると思います。地域差があるのは当然で、それを受け止め、一緒に考えることが協働の学びであり、多様性を実感する教育であると思います。
- ・通信状況は常に良好でした。こちらの音声が届きづらい時や、カメラの映像がうつらない時もリトケイの方々の助言ですぐに改善できました。他地域との接続がもっとあったらいいなと思いました。
- ・もっと他校の子どもたちと交流したかった(全校とか理想的ですが、ムズカシイですね)。

◎反省・改善点

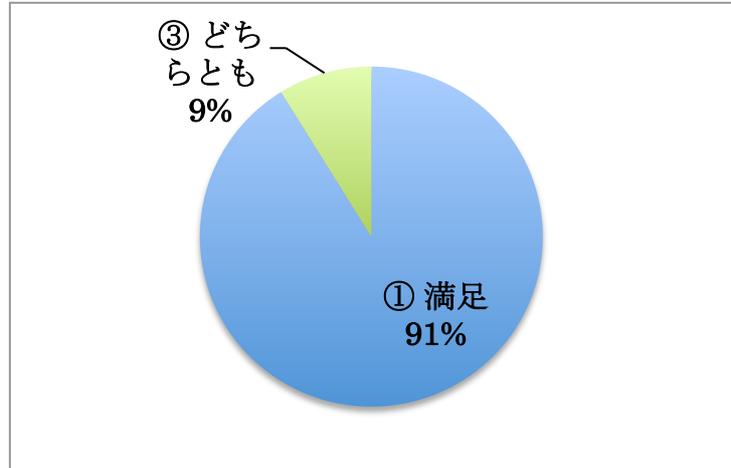
- ・テレビ電話だけでなく、講師がやはり直接来てもらうとその後のテレビ電話での集中力が増します。直接のコミュニケーションの効果というものがあるので。もう少し来てもらったら良かったかなという気もする。児童的には講師もあまり変わらない方がいいね。
- ・他地域の学校と交流できることはとても良いと思う。ただお互いの紹介だけでなく、前もって話す内容を考えておくともっと充実すると思う。
- ・子どもや教師が慣れていないこともあり、目の前にいない多くの子ども達との交流、遅れて入って来る映像などに少しとまどっていたようにも感じられた。ただ、他地域と交流できるメリットははかりしれないと思いました。
- ・こちらの音声が届くのが遅いのと、受け答えのタイミングが難しくて、迷惑をかけたと思います。
- ・音がとぎれて何を言っているのかわからない。
- ・もう少しカメラの画素数が高くなって、相手の顔がクリアに見えるといいなと思います。
- ・テレビ電話での授業は座学ということもあり、子どもにとって退屈だったようである。テレビ電話会議ではやはり、他校との交流メインの方が子どもにとっては良かったかもしれない。
- ・ネット環境何が良ければ、色々な可能性を感じます。ただ、今の状況では授業がスムーズに進まないため、難しいです。
- ・他教科でも活用できないか考えてみたが、やはり他の地域の先生との連絡手段がないため、活用するまでに至らなかった。また、コーディネーターの方が普段接続してくださるので、いざ、自分で使うとなると躊躇してしまった。学校同士で積極的に使えると、とても魅力的なシステムだと思う。
- ・もっと交流の回数を増やしてもらったら嬉しいです。それか1回の交流の時間を長くしてほしい(子どもたちに消化不良を感じたため)。

▼運営体制について

Q.1：プログラム全般に対する運営の質はいかがでしたか？

A.1：①満足 ②不満足 ③どちらとも言えない

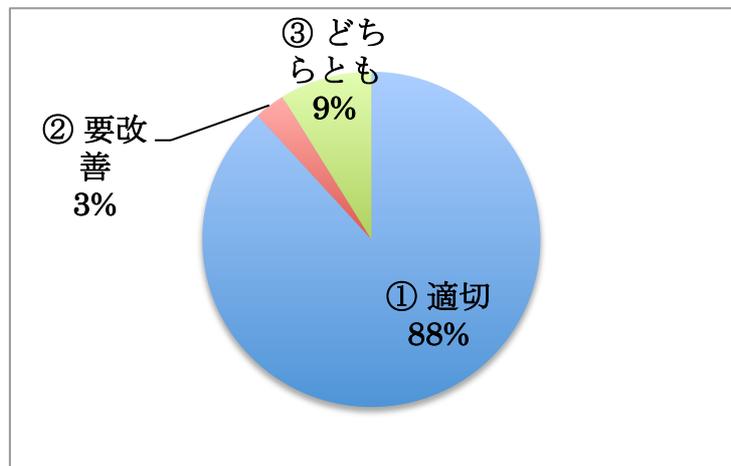
①満足	31
②不満足	0
③どちらとも言えない	3



Q.2：事務局の運営体制についてはいかがでしたか？

A.2：①適切だった ②改善が必要 ③どちらとも言えない

①適切だった	30
②改善が必要	1
③どちらとも言えない	3



Q.3：本プログラムの運営全般（進行管理や媒体制作、体制などでも）について、ご意見・ご要望等お聞かせ下さい。

◎良かった点

- ・東京での発表の機会はとても有意義だったと思う。
- ・自分たちの町を見直すきっかけとなり良かった。また、日本には自分たちの生活とは違う地域があることを知ることができ良かった。
- ・発信する責任を子どもたちは感じられたのではないかな。

- ・(テレビ電話会議システムを利用した) パソコン配信での授業は良かった。
- ・事前に事務局から各授業の進行スケジュールを預けたので当日の進行にとっても役立った。
- ・いつもとても親身に対応して下さり、有り難かったです。子どもたちはいつもテレビ電話越しに松本先生に会えるのをとても楽しみにしていました。
- ・ささいな質問にも丁寧に答えてくださいましたし、こまめにメールや電話で連絡もいただけていたので安心感がありました。
- ・よく相談にのってもらったり、こまごま知らせていただいたりと、ありがたかった。
- ・メッセージで随時やりとりができたのでよかった。たくさんの地域と関わられているので、大変だったと思いますが、適切に返答も頂いていたと思います。
- ・他の地域を知ること、自分たちの住んでいるところの違いや良さに気づき、誇らしく思う気持ちが持てたと思う。離島経済新聞社や地域コーディネーターの方々の運営のおかげで子ども1人ひとりが役割をもち、グループ全員が協力しながら活動することができた。
- ・3年目ということでスムーズに進められたと思います。原稿も少なくなり、取材や記事の内容チェックが昨年度よりとても楽でした。松本先生の授業もわかりやすかったです!
- ・今年は新聞の1面を作るということで、取材内容が去年の10項目から5項目へ減ったことでとても取り組みやすかったです。子ども達も時間的にも内容的にも取り組みが充実していたと思います。
- ・どこをとってもきめ細やかな目がゆき届いている感じでやりやすかったです。
- ・丁寧に運営、学習サポートをして下さり、とてもやりやすかったです。
- ・事務局、地域コーディネーター、学校の三者が関わることによって、地域に根ざした紙面ができるのだと感じました。
- ・概ねよかったと思います。不便はなかった。
- ・相談にのってくれてとても助かりました。ありがとうございました。

◎反省・改善点

- ・うみやまかわノートの紙が鉛筆では書きにくいものなので改善してもらえたらいいなと思います。
- ・事前に送っていただく進行表をすごく頼りにしていました。ただ、タイムスケジュール表が直感的に読み解きにくかったのももう少し見やすいといいです。
- ・改善点として、全国版だけではなく町内版(地域版)があった方が使いやすいと思いました。上島では広報折り込みで全戸配布しているので、全国版だと配布が大変でした(厚みがあるため)。
- ・パワーポイントで発表できたらよりよかったものになったと思う。7分という時間内なら何枚でも……と任せてほしかった。
- ・(東京発表会での宿泊の際)全員でのミーティング場所が狭かった。食事等も一回でできるところが望ましい。

▼その他

Q1: 今後に向けた改善点や年間通じて、プログラムへのご意見・ご要望など、お聞かせ

下さい。

◎良かった点

- ・自分たちの地域だけでなく、他の地域のことを知ることで自分たちとは違った自然、文化などがあることを理解し、国土の多様性を理解する一歩となった。
- ・情報をどう扱うのか。取材し情報を集めて編集し、発表することの重責が理解できた。
- ・児童たちは、うみやまかわ新聞のおかげで自分たちの住む地域についての理解が格段に進み、その良さもよくわかったかと思います。しかもそれだけにとどまらず、他地域との比較によって自身を客観化あるいは相対化して眺める訓練にもなったと思います。国土や風土、民族の多様性への理解を進め、深めるプロジェクトは大変に意義があると思います。
- ・昨年度に比べて各単元への理解や探究心を深めることが重点的なプログラムになっていると感じた。記事量が減っても、各々の記事の質が高まり、こどもたちも想いを込めて新聞づくりに誇りをもって取り組んでくれたと思う。
- ・子どもたちの普段の生活ではなかなか触れることのない地域の内側と外側を知る貴重な時間でした。こういう活動が地域内で生まれて、一地域一紙くらいになると面白いですね。
- ・本校では3、4年生も取り組みました。記事作りはとても難しかったようですが、この経験を無駄にしないようにしたいです。
- ・東京発表は子ども達の最高の力を出せるのと、非日常的な雰囲気の中での発表は1年間のまとめとしてとてもよかった。ありがとうございました。できあがった新聞は小学校の宝物になります。
- ・下級生の児童たちが「私たちもやりたい」「東京へ行って発表したい」と言っています。尾川小で来年も続けられるといいのですがね。この2年間で多くの体験をし、知ることができました。東京でそれぞれの地域で同じ経験をした子どもたちが一堂に会し、友達になれたことにも、小さな地域同士だけに、とても有意義なものを感じました。この活動がずっと続き、実り多い事業になるようにと願っています。ありがとうございました。
- ・本校はこれまでも自分達の地域についての調べ学習は実施していましたが、このプログラムに参加することで、調べたことの発信の形や場を与えてもらえ、意欲的に取り組みました。改めて地域の良さを知ると共に、地域の方も喜んでくださり、関わりが多くなりました。2年間お世話になりました。
- ・学校の授業として導入していただいで、クラス全体で取り組めたことはとても有意義だった。年間スケジュールにはなかったが、学校独自にクラスの中で各グループの記事の発表会を参観日に行った。他のグループのことを知れたり、保護者の方々にも興味をもって聞いてもらえたりした。今後もこのような機会があれば継続して行いたい。
- ・新聞作り以外でも総合的な学習の時間のまとめ方（模造紙、クイズ、劇……）で、専門家としての助言をこれからもいただけるとありがたいです。是非今後も子どもたちの思考の流れでリトケイさんと学びたいと流れて行った時、ご協力をお願いします。
- ・小学生はとても素直だし、発表も抵抗なくこなしてくれました。外に目を向け始める中学生こそ、客観的に自分たちの育った島を見つめ直すのにうみやまかわ新聞があればいいだろうなと思います。同じ島でも小学生、中学生、高校生など様々な年代で新聞作りに取

り組むと、どんな記事になるのか興味がわきました。

◎反省・改善点

- ・作成したものを地元でも他の場所でも発表する場は必要と感じました。
- ・完成発表会の前に昨年度の発表の様子が分かる映像か何かを見せて頂けるとありがたかったかなと思います。
- ・新聞をつくることを目的ではなく、新聞づくりを通して学ぶ大切なことにフォーカスしてカリキュラムを立ててもらえると、次期学習指導要領のアクティブラーニングに近い学習になるのではないのでしょうか。
- ・完成品の新聞はやはり大きい版だったら良かったなという意見がよく聞かれました。
- ・20時間の中だけでは記事を完成に持っていくのが難しかったようで、学校側でずいぶん時間をやりくりしてもらいました。そこに私はあまり関われなかったのが（途中参入で様子がよくわからなかったのもありますが）学校とコーディネーターでもっと連携できるようにアテンドしてもらえると入りやすかったかなと思います。
- ・尾川小学校は最後に一度交流ができたのみだったので、もう少し早い段階で交流授業ができたならよかったかなと思います。
- ・今年のような形が本校の理想形に近いと思うので、次年度、形が変わるのが残念です。（たしかに発表会は東京会場のみという点は改善の余地があると思います）
- ・発表会について本校のようなへき地にある場合、スケジュールがとても厳しい。3連休の時など、多少ゆとりのあるスケジュールだと助かります。
- ・学校の制約（時数など）もあり、色々悩みながらの1年でした。他校（他地域）ではどのように行っているのか等、情報交換もあれば今後も継続して取り組みやすいのではないかと思います。
- ・発表会前日の交流会について、もっと先生やコーディネーターを活用し、児童の交流を促してもよかったと思う。やはり、同じ地域の人数が少ないと児童も緊張して他地域の児童と交流しづらそうだった。ゲームの際に、テーブルごとに大人を配置しうまく交流しながらゲームに参加させることができれば、その後の活動もスムーズにいくと思う。特に先生方はアイスブレイキングの技を多く持っていると思うので、積極的に活用しても良いと思った。
- ・とてもお世話になりました。子どもたちにとっても二度とない経験をさせていただき、感謝しています。発表会での宿泊地やスケジュール等大変かと思いますが、少し改善されたらなおよかったかなと思いました。
- ・TV 会議で授業を進める際、スライドでの表現だけではなく動画も交えながらの内容だと子どもたちもイメージしやすくなるのではと思いました。「取材」の説明だとすると、実際に子どもたちが取材を行っている動画を流すなど。

9.2 学習者の声

参加児童についても、各年度、カリキュラム終了後にアンケートを実施し、事業への感想を集めました。年度ごと抜粋して記載します。

<2014 年度>

【北海道利尻島】

- ・この新聞を通じて、利尻の自然について深く考えることができました。
- ・うみやまかわ新聞を読んだ人が、利尻に来てみたいと思って欲しいです。
- ・みんなの意見をまとめるのは大変だったけれど、とても楽しかったです。
- ・新聞作りを通じて、利尻島は本当に自然が豊かだと思いました。

【東京都檜原村】

- ・この新聞で、檜原村っていいところだなと感じてもらいたいです。
- ・テレビ電話会議で遠く離れた人と話すことがおもしろかったです。
- ・記事を書くのがとても難しかったけれど、みんなで取り組めてよかったです。
- ・取材や授業がとても楽しかった。新聞を作る作業は大変なのだと感じました。
- ・村長へのインタビューは緊張したけれど、檜原村について話を聞いて楽しかった。
- ・檜原村の林業や宮大工の仕事について、話が聞いてよかったです。
- ・地図を担当して、檜原村のうみやまかわに関係するスポットなどを知ることができてよかったです。

【愛媛県上島町】

- ・学校の新聞作りとはちがう部分がたくさんあって、新聞作りはとても大変なのだと思います。でも、いろいろな人に取材をして、たくさんのことを学びました。EM 団子の取材では、EM や水の大切さがよく分かりました。この新聞を読んだ人が、上島町やここで働くことなどに興味を持ってくれたらうれしいです。
- ・取材でお話をうかがったことやテレビ電話でみんなとお話をするのが楽しかったです。新聞作りを通じて、自分が暮らす上島町には、ここにあるうみやまを大切に、自然を守っている人、産業を支えている人がいるということを実感しました。また、その人たちへの感謝を、これからも忘れないようにしたいです。

【大分県中津江村】

- ・このプロジェクトを通じて、日本の水のつながり、中津江村の人々の温かさを知ることができ、私自身も成長できたと思います。いろいろな取材をして、自分が住んでいる村のことを深く考え、これまで以上に中津江村が好きになりました。
- ・原稿を書くことが思った以上に難しくびっくりしましたが、自分なりにがんばれたと思います。この新聞作りを通じて、これまで知らなかった中津江村のことを学ぶことができ、とても楽しかったです。

【沖縄県与那国島】

- ・田原川や祭りのことは、普段から知っていたけれど、歴史とかは全然知りませんでした。うみやまかわ新聞を通じて、自分が知らないことを学べてよかったです。
- ・最初は不安もありましたが進めていくうちにとても楽しくなりました。自分の地域には、海や山や川があって、いろいろな生き物がいることなどを知りました。

<2015 年度>

【北海道利尻町】

- ・新聞のつくりかたもわかったし、楽しかった。
- ・利尻に住んでいてもわからなかったことがこの授業でわかった。
- ・新聞をつくりはやっぱりむずかしいけど、取材に行ったことで自分が住んでいる地域のいいところを改めてたくさん知れた。たのしかったです。
- ・自分たちの地域のことだけじゃなく、他の地域についても知れたし、おもしろかった。

【千葉県いすみ市（いすみ市立太東小学校）】

- ・取材や文章の構成をぼくたちは約1年でやっている中で、新聞社の人はこれを1日で全てこなして完成させるのはすごいと思いました。貴重な経験をありがとうございました。
- ・いろいろな学校と交流ができてとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・自分たちの地域をいろいろ知れて楽しかったし、テレビ電話で他の小学校の人たちと話したことが楽しかったです。1年間うみやまかわ新聞を学べて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・農家の方にインタビューすることや、全国に出る新聞を書くことなど、普段ではできない貴重な体験をすることができてとても楽しかったです。貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。
- ・今までとは違う本物の立派な新聞をつくれたのでよかったです。1年間新聞づくりを教えてくださいありがとうございました。

【千葉県富津市（富津市立金谷小学校）】

- ・テレビ会議システムや、新聞作りを初めてやったので、いろいろな発見ができてよかったです。
- ・新聞を作るまでにいろんな見なおしなどをするので大変なのがありました。
- ・本当の新聞を作ってすごかった。
- ・すごくつくるのは大変でした。けれどもすごく楽しかったです。
- ・新聞作りがとても大変ということがわかりました。

【東京都江戸川区（江戸川区立二之江第三小学校）】

- ・パソコンを通して話したときの声がおもしろかった。

- ・未来の1つの夢のせんとくになりました。とても貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。
- ・新聞ができるまで、ものすごく大変だった。でも達成感があった。みんなで取材をしたりしてとても楽しかった。自分の地域について、他の地域について学べた。
- ・新聞の作り方とぼくたちの身の回りにはまだまだ知らない事がたくさんあって、それを新聞を見てくれる人に伝えたいという事です。
- ・自分の地域のことは特に知れたけど、他の地域のことでもたくさん知れたので、よかったと思った。
- ・新聞づくりってとても大変だと思った。地域のことをより深くわかったのでうれしかった。
- ・新聞記者としての体験、とてもたのしかったです。
- ・テレビ電話を使っての学習や島や海に焦点をあてる場所がおもしろかったです。
- ・自分のたちの地域だけでなく他の地域の記事も一つの新聞にまとまっている所が良いと思った。

【山梨県北杜市（北杜市立高根西小学校）】

- ・新聞のつくり方を一から教えてくれたので、新聞作りの苦勞が分かった。また、取材をするときに必ず聞かなければいけないことがあると知っておどろいた。これからは、新聞を読むときは、書いた人は読者の人にどういうふう感じてほしいのかを考えながら読みたい。
- ・新聞づくりはたくさんの方でやることがわかりました。取材は初めてでした。今回取材ができてうれしいです。この1年間でたくさんの方を知れたし、大変さがわかりました。
- ・今回の新聞づくりではじめてやったことや、身近なことでも知れてよかったです。
- ・はじめは何を調べようかなと迷ったけど武川米にしました。私は武川米をなぜ選べたかという、私たちはコシヒカリというお米を作っているし、武川米はなぜ有名なのかを知りたかったからです。私は武川米のことを知れて北杜市を知れてよかったです。またうみやまかわ新聞を作る機会があったら行ってみたいし家新聞というのを作ってみたいです。
- ・プロの新聞記者の人に新聞作りを1から丁寧に教えてもらうということはないので、いい経験になったと思います。学校で新聞を作る時は教えてもらったことを活用しながら上手に作れたらいいと思いました。
- ・いろいろなこと、花の種類、温泉の数、効果などを知れて良かった。うみやまかわの勉強を通してすこしもの知りの人になれた。

【長野県木曾町】

- ・自分の暮らす地域の事をたくさん知れた。
- ・新聞作りをしている人達の大変さが分かった。
- ・他の地域の良い所などが分かって行ってみたいなと思った。

- ・他の地域と交流しながら本格的な新聞をつくれるのがすごいと思いました。
- ・自分が暮らしている地域のことが前から知っていても取材をするとそのことがもっとくわしく知ることができたのでよかったです。
- ・授業はとても楽しかったし、いろんな人に会えたこともうれしかったです。

【兵庫県姫路市家島（姫路市立家島小学校）】

- ・新聞を作るのが一番苦労したけど、やっぱり苦労したかいがあったと思います。
- ・ぼくは、うみやまかわ新聞のはじめの時にできるかなと心配していましたが、予想よりもうまくできたのでとてもうれしかったです。
- ・とても文を書くのがむずかしくてとてもなやんだけど、新聞を作った時はとてもうれしかったです。
- ・最初、うみやまかわ新聞はどんなだろうと思ってたけど、家島の魅力を調べていくうちに、家島のうみやまかわをたくさん知れてとても楽しかったです。
- ・新聞を作るのは苦労したけど楽しかったです。
- ・ぼくたちが自分たちの力でインタビューに行ったりしてその情報をまとめて、やっと新聞ができた時はすごくうれしかったです。
- ・最初は簡単だと思っていたけど実際にやってみるとものすごくむずかしくて、新聞を1日で作る人はすごいと思いました。

【愛媛県上島町（上島町立弓削小学校）】

- ・ほかの地域の自然のすばらしさを知れたし弓削のすばらしさ、上島町のすごい所がわかりました。新聞作りの大変さを知り、新聞記者の人はすごく大変な作業をしているのだと思いました。うみやまかわ新聞で学んだこと、感じたことをこれからの生活に活かしていきたいです。
- ・この約8ヶ月で本当に色々なことを学んで本当に楽しかったです。新聞作りをするときの基礎を学べたのでこれからも活かしたいと思います。1言で書ききれないほどたくさんの方がいました。本当にありがとうございました。
- ・うみやまかわ新聞でお母さんとお父さんにはまだ見ていないので、「私が書いたんだよ！」って言えるようにしたいです。
- ・最初「やる」と言われた時はマジかと思いました但实际上にやったら「楽しい」と思いました。
- ・地域には身近に「うみ」「やま」「かわ」があるけどこんなにふれたりしたことはありませんでした。来年の人にもこの感動を味わってもらいたいです。
- ・地域みんなの思いをこれほど伝えることは、もうこれ以上ないんじゃないかなと思うので、新聞らしく完成できてよかったです。取材させてくださった方にも読んでもらいたいです。
- ・とても楽しくてチームワークや、協力性、真剣さなどを学びました。とてもいい思い出になりました。

【高知県佐川町（佐川町立尾川小中学校）】

- ・こんな学習をするのははじめてで記事をまとめることなどはとても難しかったけど、楽しかったです。テレビ電話も使ってみて遠くにいる人とでも授業ができるなんてとても便利だと思いました。
- ・新聞を作るのは大変で読む人が解りやすいように仕上げなければならない。
- ・楽しかった。他の地域や自分の地域の良さが知れてよかった。
- ・自分が知らなかった新聞作りの大変さが知れた。
- ・とても楽しかった。本格的にやったのでいい思い出になった。
- ・すごく最初はわからなかったけれど、でもまちがった情報を書いてはいけないことが分かりました。
- ・新聞づくりの大変さとかむずかしさが分かった、他には楽しさ取材などもする楽しさが分かった。

【大分県日田市（日田市立津江小中学校）】

- ・うみやまかわ新聞を通して、新聞をつくる大変さ、みんなで協力し合う大切さを改めて実感することができました。
- ・授業では知らない聞いたこともない言葉がたくさんあったし、わからないこともあったけど楽しかったです。
- ・新聞を作る機会はなかなかなくて、その新聞作りがものすごく大変だということが分かった。とても大変だったけど楽しかった。
- ・うみやまかわ新聞で新聞をつくる大変さと津江の自然についてもっと深く知れてよかったです。東京での発表でもきちんとできてよかったです。
- ・身近にあるものでもその歴史などがたくさん学べて良かったです。それに、知っていたけど、それをさらに深く知ることができ、楽しかった。
- ・うみやまかわ新聞を通して、新聞の作り方や作るときの大切さを知れてうれしかったし、みんなと協力して完成させることができたのでうれしかったです。それに自分の地域のことも森林の大切さも知れてうれしかったです。

【長崎県対馬市（対馬市立豊小学校）】

- ・新聞を作るのは思っている以上に手間がかかることです。取材して出すところをきめるのもどれにしようかまよいました。でも取材は人に聞いたりいったりして楽しく取材ができました。地域のことも深く考えることでよく地域の特徴が分かりました。いくら「都会」でも「うみ」「やま」「かわ」の良さがあると思います。それと中学生版うみやまかわ新聞をつくってください（ぼくは中1になったら春日（福岡）の中学に行くので）
- ・大変なことやむずかしいこともあったけど、とても楽しかったです。新聞社の方がくわしく説明してくれて初めてだったけどすごく分かりやすかったです。
- ・1つの事を長い間ずっと調べたのは初めてで、こんなにくわしく調べたのは初めてでした。でも、テレビの奥でプロの方がアドバイスをくれたり教科書もあったり、ほかの地域と比べることで新聞ができてうれしかったです。

- ・大変なことがあったけど、たくさんの挑戦をして、いい経験になりました。地域に向き合い知らなかったことも知れました。できるのなら来年もつくりたいです。
- ・他の学校と初めてテレビを使って会話ができて楽しかったです。

【沖縄県うるま市（うるま市立津堅幼・小・中学校）】

- ・新聞の授業をして、取材したことが楽しかった。初めてにんじんゼリーをつくったことが楽しかった。
- ・新聞ができるまでがとても難しくて大変なことなのだと分かった。いろんな学校とふれあうことができて楽しかった。
- ・新聞を作るのはいろいろなよさを集めたりインタビューをしにいたりするのがたいへんだっただけど楽しかったです。
- ・私は、最初、新聞に何を書いていいかわからなかったけど、いろんなことを調べると、書き方が分かっていろんなところを気をつけました。
- ・ほかの地域のことを知ったし、「うみやまかわ新聞」があることを分かったのでまたやりたいと思った。

<2016年度>

【北海道利尻町利尻島】

- ・テレビ電話で学べたのがよかった。
- ・川の数思ったよりも多かった。
- ・大変だったけどおもしろいこともあった。
- ・自分の知らないこともわかってたのしかった。

【千葉県いすみ市（いすみ市立太東小学校）】

- ・地域のことをいろいろ知ることができました。
- ・みんなで作るとすごくいいのができたこと。
- ・いすみ市のうみやまかわのよいところを知ってほしい。
- ・いすみ市についてもっと色々知れたし、もっといすみ市を知りたくなった。
- ・新聞に自分の書いたことが載っていて、すごいことをやったのだと思いました。

【東京都江戸川区（江戸川区立二之江第三小学校1組）】

- ・新聞を完成したときの達成感。新聞を作るのは難しかった。
- ・ほかの地域のことを知れたのでとても楽しかった。
- ・みんなの力で1枚の新聞に出来たことがとにかく1番うれしいです。また、こういう新聞を作れる機会があったらいいなと思いました。
- ・全国に配る新聞を自分たちで作るということはめったにないのでいい経験ができたなと思った。
- ・自分の地域だけではなく少ないページ数でちがう地域の事を知れるのですごいと思った。

【東京都江戸川区（江戸川区立二之江第三小学校 2組）】

- ・自分の住んでいる江戸川区をもっともっと知る事ができ、他の地域の事も沢山知れて、みんなとの新聞作りは楽しかったです。
- ・知らなかったことも知れたし、ほかの地域の事も知れたので良かったです。
- ・新聞作りが楽しかったのでこれからもずっとやってほしいです。
- ・（江戸川区にも）意外と自然がある。ほかの地域の特徴もよく分かりました。とくにウミガメの記事が印象的です。
- ・ほかの地域の事を知るととてもいい機会だった。

【山梨県北杜市】

- ・地域の自然のことを知れてよかった。それに、北杜市は（地域導入のため）いろんな小学校から来ていたので、他の小学校の人とも仲良くなれてよかった。
- ・新聞にはいろいろな人が関わっている事を知りとてもすごいと思った。
- ・地域の魅力やすごいところをたくさん知れてよかったです。
- ・一年間かけてみんなで新聞を作れて嬉しかった。
- ・普段知る事のない新聞作りや他の土地の小学生たちとの交流ができた事がとても楽しかった。
- ・自分たちが気付いていなかった自然のすごさを改めて気づき、「すごい！」と思った。そして、地域とのつながりを通して自然の大切さや支えてもらっているという実感がわいた。

【長野県木曾町】

- ・自分の地域やほかの地域の人知らなかった事がたくさん知れたし、木曾にはこんな宝があったのと改めて知りました。
- ・新聞の作り方やほかの地域についてもよく分かった。
- ・新聞作りの内容は少しは知っていたけど、まさかこんなに苦労するとは思わなかった。
- ・とても勉強になったし楽しかったので、やれたら来年もやりたいです。

【滋賀県近江八幡市沖島（近江八幡市立沖島小学校）】

- ・最初は大変だからあまりやりたくなかったけど、東京発表が終わって1年を振り返って見て、こんな体験はめったにないから、新聞作りをしてよかったなと思いました。
- ・大変だった時もあったり楽しいところもあった。
- ・（テレビ電話で交流をして）他の地域の事を参考にできたのがよかった。

【岡山県真庭市（真庭市立落合小学校）】

- ・うみやまかわ新聞でたくさんの地域の方々とふれあえて良かったです。
- ・人とのコミュニケーション能力が上がったのでとても良い経験になりました。
- ・他の県の人と、自分たちの地域の魅力などを伝えあったりすることが楽しかったです。
- ・落合の魅力が分かったし、新聞一面を作るのにどれだけ大変かが分かった。
- ・地域を知ることができて良かったです。

- ・ふつうの授業でできないことができてよかった。

【愛媛県上島町（上島町立弓削小学校）】

- ・改めてこの地域のことを学ぶことができとても楽しい授業でした。さらに勉強にもなったのでよかったです。
- ・知っていることはもっとくわしく改めて知れたし、知らなかったことも知れたのでよかったです。うみやまかわ新聞の授業で、自分が住んでいる所の魅力をたくさん知れたのでよかったです。
- ・都会のような流行やお店があるわけではないけど、島のように海、山、川の恵みを大切にしようと思いました。
- ・同じ島に住んでいる人たちだからこそ、会話がはずんだり、「へーそうなんだ！」ということもいっしょに知れて、他の地域でもそのようなことがあったんじゃないかと感じました。
- ・これまで、うみやまかわ新聞を見る側だったけど、今回は作る側だったので、作り終わってみんなに見てもらったのが嬉しかったです。

【高知県佐川町（佐川町立尾川小中学校）】

- ・自分が知らなかった地域の事を知れてよかった。
- ・原稿をなおす時は（またか、はあ）と思ったけど、作り終わったら良い新聞だと思いました。
- ・日本のいろんな地域の事が知れたし、みんなに知ってもらえて本当に嬉しかったです。それに新聞作りが体験できてよかったです。
- ・文字数の調節や伝わりやすいように書くのは大変だったけど、できた時はとてもうれしかったし、尾川の魅力がたくさんの人に伝わるといいなと思いました。
- ・この一年間で地域について全然知らなかった自分も取材を通して地域のすごさや地域の方の優しさも知れました。記者の方は毎日、こんな大変な作業をしているなんて知りませんでした。今度から新聞を読む時は気をつけて読んでみたいです。
- ・地域の人と取材を通して交流できたのでよかったです。

【長崎県対馬市（対馬市立豊小学校）】

- ・最初はどんな授業をするのかドキドキしていたけど、テレビ電話を通して、いろいろな人とふれ合ったり、取材をしたりして、とても楽しかったです。初めてのことが多く、とても良い経験ができたなと思いました。
- ・自分の地域についてふだんよりずっと深く考えられたのでとても楽しかったです。
- ・うみやまかわ新聞ではテレビ電話でいろいろな人と話せて楽しかった。
- ・実際には会えないけど、テレビ電話だったらかんたんに（会話などが）できる。返事とかが大切。
- ・テーマを決めたり原稿を書くのは大変だったけど完成した時の達成感がうれしかったです。

- ・新聞を作るのは大変だったけど、すごく楽しく授業をできたし勉強になったので、これからは機会があれば作ってみたいです。
- ・今まで、何年間も対馬で暮らしたけど、(対馬について) あまりくわしくなかったです。でも、この勉強を通じて少しでも知れたのでよかったです。

【大分県日田市（日田市立津江小中学校）】

- ・津江は自然が豊かで自然を活かした産業をしていることが分かった。
- ・新聞を書くことがこのうみやまかわ新聞を通してもっと楽しくなりました。もっと新聞の授業をしたいと思いました。
- ・うみやまかわの授業で取材の仕方など、学校ではふつう習わないことを学べて楽しかったです。
- ・(津江は) 自然の山、川に囲まれているなあと思った。自然をこわさないことが大切だなと感じた。

【鹿児島県屋久島町口永良部島（屋久島町立金岳小学校）】

- ・難しかったけどエラブ（口永良部島）について知れていい経験になった。
- ・新聞ができるまではとても大変なのが分かった。
- ・分かりやすくとても楽しかった。

【鹿児島県和泊町町立大城小学校】

- ・交流できてよかった。
- ・うみやまかわ新聞をして、知らなかったことも知れたのでよかった。
- ・他の地域の歴史やすごい物が分かったのでよかった。
- ・自分の島とほかの島のちがいが分かりました。

【沖縄県うるま市（うるま市立津堅幼・小・中学校）】

- ・自分たちの住んでいる島についてわかるようになった。
- ・いろいろな地域でがんばっている人たちがいることを知った。
- ・島の人たちのこと（仕事や人のこと）が分かった。

9.3 アンケート回答に対する考察

事業初年度となる 2014 年度は、全国 5 地域にて放課後の時間等を活用して実施しました。各地域、学習者は任意での参加。Web 会議システムを使った授業や地域の大人への取材、新聞作り経験など学習者からは概ね良好な感想を得ることができました。一方、小学校の宿題や習い事等との兼ね合いから、スケジュール面での学習者の負担について地域コーディネーターから懸念の声が多数あり、この部分については、2015 年度より学校の授業として導入することで対応しました。

2015年度は全国12地域で実施。10地域については、小学校の授業に導入しました。2地域は2014年度同様に放課後や休日の時間を活用して実施。学校授業への導入初年度でしたが、教員、地域コーディネーターから、授業カリキュラムは対象学年（小学校5・6年生）に適した内容であると、概ね良好な評価を受けた。学習者はプロの編集者から学ぶ新聞作りの過程を経験し、「新聞作りは大変」といった感想が多く挙がったが、取材を通して地域の大人に話を聞き、改めて地域の良さが分かったという嬉しいコメントも多数ありました。Web会議システムを使った他地域との交流体験や完成した新聞の読み比べから、他地域にも同様に「うみ」「やま」「かわ」の良さがあることを考えるきっかけとなりました。しかし一方、小学校への授業導入初年度ということで、多くの反省・改善点が挙がりました。特に、事務局、小学校、地域コーディネーター間の連絡体制や年間のスケジュール計画、カリキュラム内容の3点については、改善に向けた様々な意見を受け、2016年度に向けて、より丁寧な連絡体制の推進、想定コマ数（20時間）に収まるカリキュラムの作成、明瞭な年間のスケジュール設定など、見直し・改善を行いました。

3年度目となる2016年度は14地域にて実施。11地域では小学校の授業へ導入し、3地域については地域で受け入れ、実施しました。前年度の経験や教員・地域コーディネーターからの意見を参考に、カリキュラムの見直しや連絡体制を改善した結果、2015年度と同様の項目で実施した事業終了後のアンケートは、ほぼ全ての項目で2015年度を上回る良好な回答を得ることができました。とりわけ、Web会議システムを使った他地域との交流授業やプロの編集者による授業を受けられるという点は高く評価されました。学習者の感想からは、新聞作りを通して自分が暮らす地域への理解が深まったと同時に、他地域との交流授業を通して、多様な地域を知ることができたという意見が多くありました。今後、カリキュラム内容のさらなる充実を図るため、実施地域の実情や希望に合わせたプログラムの構築が求められると感じます。

また、本事業の最大の目的である「海洋教育の推進」という観点では、海のない地域の学習者が、山・川を介した海とのつながりを紹介する記事を掲載していたほか、交流授業や完成した新聞の読み比べから、多くの学習者が日本各地に多様な地域があり、それぞれの地域をつなぐ「水のつながり」があることを考えるきっかけとなりました。

10.1 他媒体掲載実績

各地域のメディアから多数紹介され、取り組みを広く周知することができた。

<2014年度>



愛媛新聞9面 (2015年2月2日発行)

<2015年度>



日刊宗谷2面 (2015年12月16日発行)



日刊宗谷2面 (2016年1月22日発行)

<2016年度>



都政新報 8面 (2016年4月28日発行)



奄美新聞 3面 (2016年6月9日発行)



奄美新聞 10面 (2016年7月1日発行)



大分合同新聞朝刊 14面 (2017年3月14日発行)



千葉日報 11面 (2017年3月18日発行)

11.1 教育カリキュラムとしての可能性

2014年度から2016年度までの3年間、18地域にて当事業を実施した経験や、各地域の教員・地域コーディネーターをはじめとした関係者からの意見を基に、教育カリキュラムとしての可能性について言及します。

①ICT活用の可能性

Web会議システムの活用により、距離的な制約（格差）を取り払うことができるため、離島や中山間地に対しても、一律の教育カリキュラムを提供することができます。また、都市と地方の教室をつないだ交流事業や、さまざまな専門家によるレクチャーを授業内に組み込むなどの利点もあります。

また、Web会議システムは授業時間以外でも有効であり、授業実施前の教員との打ち合わせなど、あらゆる面で活用できます。一方、ICTの活用については、機器の操作や、交流授業の調整作業が必要となるため、学校側から「そうした業務を誰が担うのか」といった懸念の声も聞かれます。当事業では、ICT機器の操作や接続を地域コーディネーターが行い、交流授業の日程調整は事務局が実施することで、スムーズな運営を行うことができました。

②遠隔・小規模校のコミュニケーション課題解決の可能性

離島や中山間地域には小規模校が多く、複式学級や1学級あたりの人数が少ないため、「コミュニケーションの固定化」や「同級生が少ない」といった課題が多数みられます。うみやまかわ新聞のカリキュラムでは、他地域との交流体験、多様な同年代とのコミュニケーション機会を創出することができます。

③地域愛を醸成する地域教育としての可能性

うみやまかわ新聞の制作過程では、学習者は取材活動や体験活動（※）を通して地域内のヒト・モノ・コトに接します。自らが暮らす地域にどのような自然や歴史、文化、産業があるのか、地域の大人から直接を聞き、感じることで、学習者は実体験として地域を知ることができ、地域愛を育むきっかけとなります。

※体験活動の例：サントリーの工場見学（北杜市）、川の水質検査（真庭市立落合小学校）、化石掘り体験（佐川町立尾川小中学校）、芋掘り体験（うるま市立津堅幼・小・中学校）。

④交流体験の可能性

2016年度は各地域で1回以上の交流授業を実施しました。交流授業では、地域紹介や取材内容などを発表し合い、お互いの地域についての理解を深めます。服装の違いから感じる気候の違いや、言葉の違いから、学習者が普段感じている「あたりまえ」が、地域毎に異なる個性であることに気づき、「他を知り自己を知る」ことができます。こうした学びをきっかけに、学習者は日本を俯瞰して捉える視点を養うことができます。

⑤地域内連携の可能性

うみやまかわ新聞の教育カリキュラムでは「取材活動」が必須となります。その際、取材対象が地域住人であることから、地域住人が学校に関わり、関係性を育むきっかけとなります。佐川町立尾川小中学校や対馬市立豊小学校、真庭市立落合小学校ではうみやまかわ新聞完成後、取材対象者や学区域の住人に向けて完成報告会を実施しました。ほかにも、長野県木曾町や愛媛県上島町では完成したうみやまかわ新聞を広報紙に折り込み、町内に全戸配布しました。これらは、文部科学省が推進する「コミュニティ・スクール（地域とともにある学校づくり）」化にも通じる可能性があります。

12.1 総論

日本は四方を海に囲まれた海洋国家です。しかしながら、都市や海から離れた地域に暮らす人々にとって、海は必ずしも身近なものではありません。離島地域に人の暮らしが存在しなければ日本は広大な海を保持できないため、2017年4月に「有人国境離島地域保全特別措置法」が施行され、国境に位置する有人離島の振興に国も危機意識を強めています。離島を含む海洋地域の振興は、日本の宝を守ることにつながるため、「日本の海」についての認知拡大を図る海洋教育は、今後ますますの重要性を増していくと考えられます。

うみやまかわ新聞事業では、「海洋教育の推進」をテーマに据え、地域の人材育成につながる海洋教育の機会創出と、その実現を目的に実施した『海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作』事業を述べ466人に提供しました。学習者のアンケート回答からは、自らが暮らす地域について「新しい発見があった」「深く知れた」という声が挙がった一方、他地域との交流体験から「知らない地域のことが知れた」「さまざまな海や川や山があることを知れた」など、多角的な学びを得られたことが分かりました。

2～3年に渡って継続実施している地域では、うみやまかわ新聞の存在や活動の意義について、自治体や地域住民からも広く認知されるようになりました。こうした地域では、同事業が持つ「地域の人材育成につながる海洋教育の機会創出と実現」への期待が高まっていることから、継続的な実施により海洋教育促進の効果が高まると考えられます。

また、学習者や地域側からは「他地域との交流体験」の満足度も高く、継続的なニーズが存在しています。今後はより深い交流体験を創出できるよう、カリキュラムに落とし込み島と海でできた日本をより多角的、包括的に学べる教育プログラムとして実施してまいります。

-----【うみやまかわ新聞に関するお問い合わせ先】-----

うみやまかわ新聞事務局（特定非営利活動法人 離島経済新聞社内）

担当：大久保昌宏・松本一希

TEL：03-5432-9831

FAX：03-6745-8907

Mail：mail@ritokei.com
